宮崎市文化財調査報告書

第77集と78集の間

宮崎市
埋蔵文化財試掘・確認調査

—平成20年1月～12月—

2009

宮崎市教育委員会

序

本書は平成20年に実施した埋蔵文化財試掘・確認調査の報告書です。

当市は平成18年に周辺の３町と合併し、県庁所在地として、また中核市として、今後、益々の発展を遂げていくものと思います。都市の発展と開発は不可分の関係にあります。本書に報告する試掘・確認調査も、ほとんどは開発に対応して実施したものであり、今後、調査件数は増大していくものと考えられます。都市としての発展と文化財の保護をいかにして両立させるかは、常に考えなければならない難しいテーマです。

当市ではこれまで、本書のような試掘・確認調査の報告書は刊行しておりませんでした。しかし調査の規模や結果によらず、いつ、どこで、どのような調査を行ったかということも、地域の歴史を復元していく上で欠くべからざる重要な情報であると考え、今年から試掘・確認調査報告書を刊行することといたしました。

本書は、当市における埋蔵文化財行政の実情を反映したものでもあります。他県、他市町村の機関において刊行されている同種の報告書と見比べてみますと、まことに見劣りがいたしますが、今後の研鑽を期して刊行したいと思います。

文末になりましたが、調査の意義を御理解いただき、御協力いただきました関係者の皆様へ、心より御礼申し上げます。

平成21年３月

宮崎市教育委員会
教育長　田 原 健 二

例　　言

1. 本書は宮崎市教育委員会が平成20年1月から12月までに、主に開発事業に対応して実施した埋蔵文化財試掘・確認調査の報告書である。

2. 調査組織

調査主体	宮崎市教育委員会		
調査総括	文化振興課長	野田　清孝	（平成19年度）
	文化財課長	小椋　　聖	（平成20年度）
	主幹兼文化財係長	山田　典嗣	
調査事務	主任主事	吉永　大介	（平成19年度）
	〃	松崎　留美	（平成20年度）
調査担当	主　　査	島田　正浩	
	主任技師	金丸　武司	
	〃	竹中　克繁	
	技　　師	石村　友規	
	〃	西嶋　剛広	
	嘱　　託	島井　伸幸	

3. 本書の執筆は各調査担当者が行い、執筆分担は目次および本文中「平成20年実施　試掘・確認調査一覧」に記している。また編集は竹中が行った。

4. 本文中の位置図、トレンチ配置図に関しては、特に補記のない場合、すべて天が真北である。

5. 出土遺物および掲載図面・写真等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用等に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。

本文目次

平成20年実施 試掘・確認調査の概要 …… 1

1. 村角町字天神田試掘調査（平成20年1月24日） …… （竹中） 4
2. 佐土原町西上那珂試掘調査（平成20年2月19日） …… （金丸） 5
3. 阿波岐原町試掘調査（平成20年4月24日～） …… （金丸） 6
4. 大字北郷南方字辻試掘調査（平成20年5月1日） …… （金丸） 7
5. 佐土原町下那珂字明神山試掘調査（平成20年5月1日） …… （西嶋） 8
6. 大字島之内字新川試掘調査（平成20年5月8日） …… （石村） 9
7. 錦町試掘調査（平成20年5月19日～） …… （金丸） 10
8. 高岡町浦之名試掘調査（平成20年5月29日） …… （金丸） 11
9. 丹後堀遺跡確認調査（平成20年6月3日） …… （竹中） 12
10. 曽師遺跡確認調査（平成20年6月4日～） …… （金丸） 13
11. 高岡麓遺跡確認調査（平成20年6月5日～） …… （石村） 14
12. 内之八重第1遺跡確認調査（平成20年6月17日） …… （竹中） 16
13. 吉村町今村試掘調査（平成20年6月18日～） …… （金丸） 17
14. 村角町灰作試掘調査（平成20年6月19日） …… （竹中） 18
15. 神宮西2丁目試掘調査（平成20年6月26日） …… （金丸） 19
16. 波島町試掘調査（平成20年6月26日） …… （金丸） 20
17. 高岡麓遺跡30地点確認調査（平成20年6月26日～） …… （島田） 21
18. 佐土原町上田島試掘調査（平成20年7月1日） …… （金丸） 22
19. 田野町乙試掘調査（平成20年7月3日） …… （金丸） 23
20. 田野町乙試掘調査（平成20年7月3日～） …… （金丸） 24
21. 中野原第1遺跡確認調査（平成20年7月14日～） …… （竹中） 25
22. 祇園4丁目試掘調査（平成20年7月22日） …… （竹中） 27
23. 船塚3丁目試掘調査（平成20年7月24日） …… （竹中） 28
24. 霧島5丁目試掘調査（平成20年7月25日） …… （竹中） 29
25. 高岡麓遺跡確認調査（平成20年7月28日～） …… （金丸） 30
26. 宮脇第2遺跡確認調査（平成20年7月30日） …… （竹中） 31
27. 山崎町下ノ原試掘調査（平成20年8月5日～） …… （竹中） 33
28. 大字北郷南方字榎田試掘調査（平成20年8月13日） …… （竹中） 34
29. 境畑遺跡確認調査（平成20年8月19日） …… （竹中） 35
30. 大字芳士字今出試掘調査（平成20年8月26日） …… （竹中） 36
31. 下北方塚原第1遺跡確認調査（平成20年8月21日～） …… （西嶋） 37
32. 大塚町樋ノ口試掘調査（平成20年9月2日） …… （竹中） 39
33. 高岡町内山字去川試掘調査（平成20年9月22日） …… （金丸） 40

34. 吉村町今村試掘調査（平成20年９月25日）……（金丸） 41
35. 高岡麓遺跡確認調査（平成20年10月20日）……（金丸） 42
36. 大字島之内字中小路試掘調査（平成20年10月23日）……（竹中） 43
37. 古城第２遺跡確認調査（平成20年11月13日～）……（金丸） 44
38. 先切遺跡確認調査（平成20年11月４日～）……（金丸） 46
39. 下北方遺跡群確認調査（平成20年11月12日）……（竹中） 48
40. 錦町試掘調査（平成20年11月18日～）……（金丸） 49
41. 下北方遺跡群確認調査（平成20年12月17日）……（竹中） 50

平成20年実施　試掘・確認調査の概要

宮崎市文化財課では、公共事業、民間事業の別によらず、開発事業の計画段階において、事業者からの予定地における文化財の有無についての照会を受け付けることで、市内における開発事業の把握を行っている。事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地や、それに準ずるような箇所である場合、事業者と協議の上で、施工規模等に応じ、工事立会いや、確認調査、試掘調査の実施等の措置をとっている。

平成20年１月～12月までに実施した文化財試掘・確認調査は計41件、うち公共事業による開発を調査原因とするものは21件、民間事業によるもの19件、その他1件である。公共事業では区画整理や道路の敷設、防火水槽の設置など様々であるが、民間事業では宅地造成や携帯電話用の鉄塔建設、個人住宅や共同住宅の建設などが多く、特に携帯電話鉄塔と共同住宅が近年増加傾向にある。

試掘・確認調査により埋蔵文化財の遺存が確認されたものは12件で、その後の協議により、うち4件は盛土等による現状保存となり、４件は工事削平を免れえず本発掘調査実施の措置となった。残る４件の措置については、現在、協議中である。詳細は後のページに譲るが、埋蔵文化財の遺存が確認されたもののうちで主要なものを以下に列挙する。

海岸部の砂堤列中を流れる産母川の河川改修事業に伴って４月と11月に実施した阿波岐原町の試掘調査（３・38）では、ともに弥生時代を中心とした多量の土器片が出土した。砂堤の形成時期を考える上でも重要な資料になると思われ、一部は本調査実施の措置となり、他の部分については現在協議中である。

６月４・５日実施の曽師遺跡確認調査（10）、7月30日実施の宮鵜第２遺跡確認調査（26）では、ともに竪穴住居やそれに伴う土師器片が高密度で検出された。両調査地は互いに近接するだけでなく、昭和52～54年度および平成3年度に、古墳時代から古代にかけての竪穴住居複数が調査された浄土江遺跡に隣接しており、一連の集落跡と考えられる（宮崎市教育委員会編 1981・同 1993）。

６月５日～７月１日実施（11）、６月26・27日実施（17）、７月28～30日実施（25）、10月20日実施（35）の高岡麓遺跡確認調査では、うち３件で中世、近世の遺構が検出され、うち２件は本発掘調査を実施している。高岡麓遺跡は、近世期に薩摩藩の外城として設置された高岡郷にあたり、当該期の武家屋敷跡をはじめ、多数の遺構が検出されるが、現在の高岡地域の中心街地であり、また近年、区画整理事業が進められていることから、市内でも文化財調査の集中する地域の一つである。

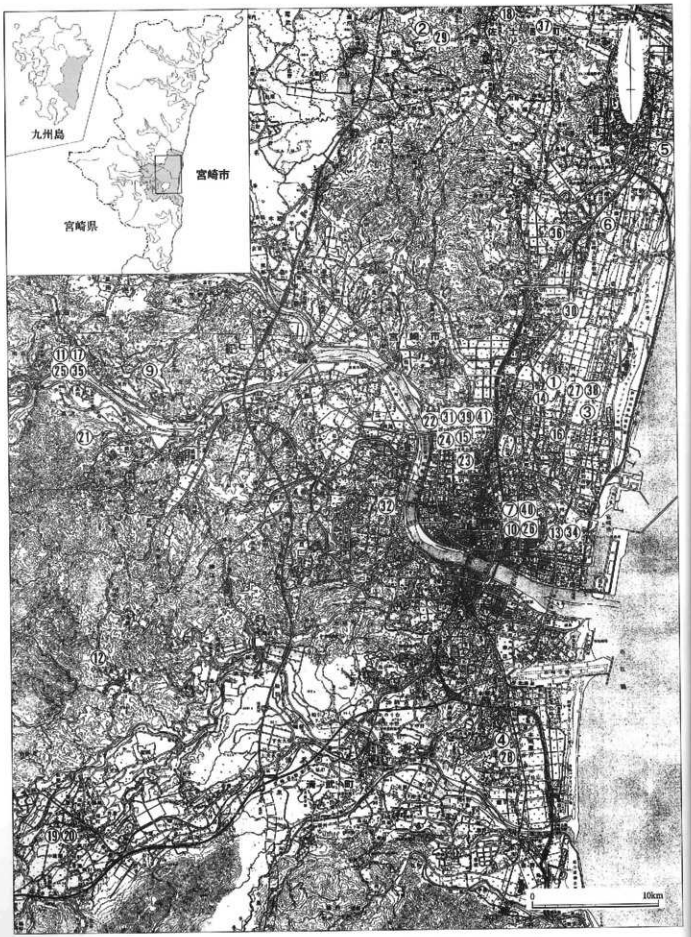
商産団地の建設に伴って７月半ばから９月にかけて断続的に調査を行った中野原第２遺跡確認調査（21）では、縄文時代早期の焼礫が検出され、またその下の層位における遺構、遺物の存在も予想された。

８月から10月初頭にかけて断続的に実施した下北方遺跡群中の確認調査（31）では土坑、竪穴住居やこれらに伴う土師器片、古代瓦片等を検出し、本発掘調査を実施することとなった（下北方塚原第1遺跡）。詳細は後日刊行の報告書によるが、竪穴住居、土坑に加え、南九州に特化する古墳時代の墓制である地下式横穴墓が2基検出されている。

11月13・14日実施の古城第２遺跡の確認調査（37）では、竪穴住居と思しき遺構や柱穴、溝状遺構とともに、古墳時代、古代を中心とする土師器片、須恵器片を多数検出した。農業基盤整備事業に伴うもので、事業範囲は広大であり、その措置については現在、協議中である。

【引用・参考文献】

宮崎市教育委員会編　1981『浄土江遺跡』宮崎市文化財調査報告書第６集　宮崎市教育委員会
宮崎市教育委員会編　1993『浄土江遺跡Ⅱ』宮崎市文化財調査報告書第25集　宮崎市教育委員会



調査箇所位置図（scale：1／300,000　※数字は調査番号に対応）

平成20年実施 試掘・確認調査一覧

No.	調査日時	調査場所	調査原因（事業種別）	担当	結果（措置）	掲載頁
1	1月24日	村角町字天神田	宅地造成（民間）	竹中	無	4
2	2月19日	佐土原町西上那珂	公園建設（公共）	金丸	無	5
3	4月24・25日	阿波岐原町	河川改修（公共）	金丸・西嶋	有（本調査）	6
4	5月1日	大字本郷南方字辻	宅地造成（民間）	金丸・石村	無	7
5	5月1日	佐土原町下那珂字明神山	携帯電話鉄塔建設（民間）	竹中・西嶋	無	8
6	5月8日	大字島之内字新川	携帯電話鉄塔建設（民間）	金丸・石村	無	9
7	5月19～22日	錦町	公共施設建設（公共）	金丸・竹中	無	10
8	5月29日	高岡町浦之名	農道整備（公共）	金丸	無	11
9	6月3日	高岡町花見（丹後堀遺跡）	携帯電話鉄塔建設（民間）	竹中	無	12
10	6月4・5日	宮脇町（曽師遺跡）	駐車場整備（公共）	金丸	有（現状保存）	13
11	6月5日～7月1日	高岡町飯田（高岡麓遺跡）	区画整理（公共）	石村	有（本調査）	14
12	6月17日	高岡町上倉永内之八重（内之八重第1遺跡）	携帯電話鉄塔建設（民間）	竹中・島井	無	16
13	6月18日・7月10日	吉村町今村	区画整理（公共）	金丸	無	17
14	6月19日	村角町灰作	共同住宅建築（民間）	金丸・竹中	無	18
15	6月26日	神宮西2丁目	防火水槽設置（公共）	金丸	無	19
16	6月26日	波島2丁目	防火水槽設置（公共）	金丸	無	20
17	6月26・27日	高岡町飯田（高岡麓遺跡30地点）	区画整理（公共）	島田	無	21
18	7月1日	佐土原町上田島	道路敷設（公共）	金丸	無	22
19	7月3日	田野町乙	団地建替（公共）	金丸	無	23
20	7月3・4日	田野町乙	病院等整備事業（公共）	金丸	無	24
21	7月14日～9月25日	高岡町小山田（中野原第1遺跡）	畜産団地建設（公共）	金丸・竹中	有（現状保存）	25
22	7月22日	祇園4丁目	共同住宅建築（民間）	竹中・島井	無	27
23	7月24日	船塚3丁目	文化財保護法第95条	金丸・竹中	無	28
24	7月25日	霧島5丁目	住宅建築（民間）	金丸・竹中	無	29
25	7月28～30日	高岡町飯田（高岡麓遺跡）	区画整理（公共）	金丸	有（協議中）	30
26	7月30日	宮脇町（宮脇第2遺跡）	住宅建築（民間）	竹中・島井	有（現状保存）	31
27	8月5～7日	山崎町下ノ原	業務用倉庫建築（民間）	金丸・竹中	無	33
28	8月13日	大字本郷南方字榎田	宅地造成（民間）	竹中	無	34
29	8月19日	佐土原町上田島（境畑遺跡）	宅地造成（民間）	金丸・竹中	無	35
30	8月26日	大字芳士字今出	宅地造成（民間）	竹中	無	36
31	8月21日～10月3日	下北方町塚原（下北方塚原第1遺跡）	共同住宅建築（民間）	竹中・西嶋	有（本調査）	37
32	9月2日	大塚町樋ノ口	宅地造成（民間）	竹中・西嶋	無	39
33	9月22日	高岡町内山字去川	有形文化財修復工事（公共）	金丸	無	40
34	9月25日	吉村町今村甲	区画整理（公共）	金丸	有（現状保存）	41
35	10月20日	高岡町内山（高岡麓遺跡）	公共施設建設（公共）	金丸	有（本調査）	42
36	10月23日	大字島ノ内字中小路	共同住宅建築（民間）	竹中	無	43
37	11月13・14日	佐土原町上田島字田中（古城第2遺跡）	圃場整備（公共）	金丸	有（協議中）	44
38	11月4～6日	阿波岐原（先切遺跡）	河川改修（公共）	金丸	有（協議中）	46
39	11月12日	下北方町横小路（下北方遺跡群）	共同住宅建築（民間）	竹中	有（協議中）	48
40	11月18～28日	錦町	公共施設建設（公共）	金丸・竹中	無	49
41	12月17日	下北方町横小路（下北方遺跡群）	住宅建築（民間）	竹中	無	50

※ 調査担当が複数人の場合、下線が執筆担当

1．村角町字天神田　試掘調査

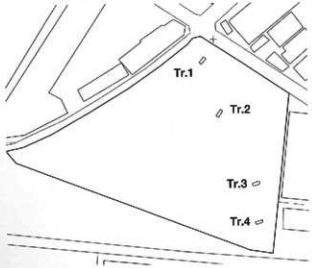
所 在 地：村角町字天神田
（北緯31度56分59秒、
東経131度26分48秒）
調査期間：平成20年１月24日
（実働１日）
調査面積：10.8m²
（調査対象5,220m²中）
調査原因：宅地造成
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

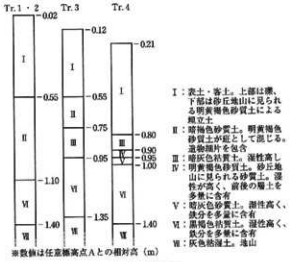
立地　宮崎平野の海岸部に形成される４本の砂丘列（砂堤）のうち、最も内陸側に位置する第１砂丘の西側（内陸側）裾端部に位置する。当該地においては現在までのところ文化財は確認されていないが、同じく第１砂丘の西側裾端部に形成される周知の埋蔵文化財包蔵地「牟田中遺跡」に近接することから、開発に先立ち、事前の試掘調査を実施した。

調査結果　バックホーにより４本のトレンチを設定、調査を行った。トレンチは、事業予定地内でも砂丘列に近い東側に集中して設定した。結果として、いずれのトレンチにおいても水分と鉄分を多量に含んだ湿地性の黒褐色粘土（Ⅵ層）が、現地表から1.4mの深さ（事業予定地北東に隣接する道路上のマンホール蓋を任意標高点Ａとし、その相対高で計測）に検出された地山（Ⅶ層）上に30～40cm堆積しており、当該地は砂丘裾部ではなく、第１砂丘と内陸丘陵との間に形成された堤間低地にあたることが確認された。予定地南東端に設定したTr.４においては、砂丘上で地山を形成する土と同質の明黄褐色砂質土（Ⅳ層）が５cmほど検出されたが、砂丘裾部から流れ込んだものと思われる。またTr.１～３では、Ⅵ層上に土師質の細片を含む層（Ⅲ層）が検出されたが、形の残る遺物はなく、Ⅳ層と同じく、砂丘部分から流れ込んだものである可能性がある。

当該地の西方600mに位置する微高地上の桜町遺跡では、弥生時代の周溝状遺構埋土中から、植物珪酸体分析により微量ながらもイネが検出されている。第１砂丘と内陸丘陵とに挟まれたこの堤間低地一帯は、弥生時代から水田耕作の場として利用されていたものと考えられるが今回の調査においては、平面的にも、また土層観察からも水田耕作の痕跡を見出すことはできなかった。



トレンチ配置図（scale：１／1,500）



土層柱状図

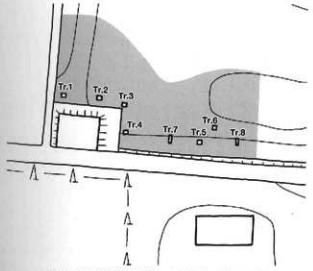
2．佐土原町西上那珂　試掘調査

所 在 地：佐土原町西上那珂
（北緯31度54分46秒、
東経131度26分54秒）
調査期間：平成19年12月５・６日
・20年２月19日
（実働３日）
調査面積：12m²
（調査対象1,821m²中）
調査原因：公園建設
調査結果：埋蔵文化財無し

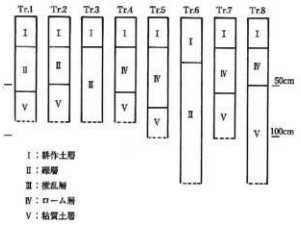
位置図（scale：１／5,000）

立地　仲間原地区は、佐土原地区の北西部にあり、宮崎平野から屹立した、起伏が大きく、開析谷の発達した丘陵地が連続する地形によって形成される。今回調査した地点は、西側は急勾配の開析谷、東側はなだらかな傾斜に挟まれ、半孤立した地形にある。この地形の東端の傾斜面は周知の埋蔵文化財包蔵地である佐野原遺跡があるほか、南側の丘稜上は、佐土原村古墳30号が立地することから、当地においても埋蔵文化財が存在する可能性が考えられたため、試掘調査を行うこととなった。

調査結果　調査地は竹をはじめとした雑木が繁茂していたため、トレンチはそれらの疎らな地点に設定した。その結果、西側の道から約10m、南側の道から約６m以上離れると、基盤層が急激に落ち込んでおり、粘質がかった層が堆積することを確認した。層中にはビニル、廃材等のゴミが多く混入していた。地元の方によると、高度経済成長期、この区画は数mも土砂採取されたのち、ゴミ捨て場として町内のゴミを廃棄していたとの事であった。しかし、南の道沿いは土砂採取されておらず、アカホヤ下層のローム層を確認した。遺物の出土を想定したが、竹の繁茂により思うように掘り下げられなかったことから、伐採後、再び調査を行うことにした。その結果、ローム層の下位は褐色の粘質土であり、小林降下軽石層よりも下位であることが分かった。層中を調査したところ、埋蔵文化財は確認されなかった。



トレンチ配置図（scale：１／1,000）



基本層序

3．阿波岐原町　試掘調査

所 在 地：阿波岐原町
（北緯31度27分26秒、
東経131度56分30秒）
調査期間：平成20年４月24・25日
（実働２日）
調査面積：52m²
（調査対象2,701m²中）
調査原因：河川改修
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：本調査

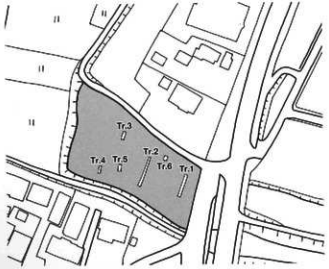
位置図（scale：１／5,000）

立地　産母川は、宮崎平野東側を流域とし、大淀川左岸に展開する砂丘（浜堤）のうち、いわゆる第一砂丘と第二砂丘の間を流れ、日向灘へと注ぐ。今回、圃場整備に併行して同川の河川改修が行われることとなったが、計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地「猿野遺跡」に隣接することから、遺跡が立地する可能性を考え、試掘調査を行った。

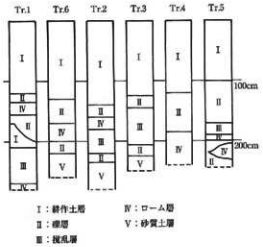
調査結果　予定地は、地表面下から瓦礫等が大量に確認され、その下位の黒褐色土もビニル片等が出土することから、現代に全面が高さ１m以上も嵩上げされたと考えられる。

以下は砂層が堆積するが、Tr.２・３・５・６からは、２m以上の深さから大量の土器片が出土した。出土は青砂と黒色土がマーブリング状に混合した層と、更にその下位の礫の混じる砂層において顕著である。土器は破片が大きいものが多いが、表面に摩滅の痕跡が共通して認められることから、隣接する猿野遺跡から流れ込んだと考えられる。

砂層の下面は粘質土が堆積すると思われるが、使用した重機（0.2m³）のアームの限界と湧水により、これ以上の掘削は不可能であった。ボーリングにより、深さ３mまで砂層が続くことを確認した。



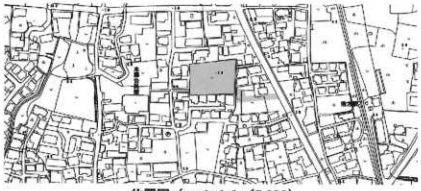
トレンチ配置図（scale：１／2,000）



基本層序

4．大字本郷南方字辻　試掘調査

所 在 地：大字本郷南方辻
（北緯31度51分33秒、
東経131度25分58秒）
調査期間：平成20年５月１日
（実働１日）
調査面積：24m²
（調査対象3,098m²）
調査原因：宅地造成
調査結果：埋蔵文化財無し



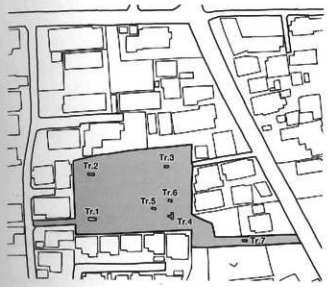
位置図（scale：１／5,000）

立地　本郷南方は、大淀川右岸に形成された平野に位置する。海岸沿いに形成された砂丘は明瞭であるが、西側に広がる平野は、砂丘状の微高地が散在する。今回の調査地は、平野部の西側、背後に宮崎層群による丘陵地を控える緩やかな傾斜地にある。丘陵上には周知の埋蔵文化財包蔵地である「西田第１遺跡」が立地することから、埋蔵文化財が存在する可能性を考え、開発に際し試掘調査を行った。

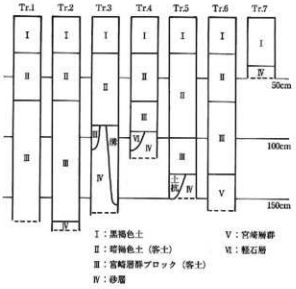
調査結果　Tr.１・２は客土がアーム限界点まで分厚く堆積していた。Tr.２からは、２mを超えた深さより黄褐色砂層を確認した。Tr.３は、客土下位、黄褐色砂層の面より溝を確認した。溝は深さ60cmに達していた。Tr.４は、客土下位の一部より、細かな軽石を含む黄褐色土の堆積を確認した。Tr.５は、客土下位の黄褐色砂層より30cm×20cmの土坑を確認した。Tr.６は、Tr.４に近接するにも関らず、客土が分厚く堆積しており、下位の状況は不明であった。Tr.７は、耕作土塊は砂層である。土坑を確認したが、境界が明瞭で非常に新しいものと判断した。

調査区内の表土下位は、総じて宮崎層群を中心とする客土が分厚く堆積していた。これは、それ以前は砂質土の堆積する低地を、工事の廃土によって埋めたためであろう。当地が丘陵と砂丘の中間部分に当たることから、土盛りは整地を意図したものと思われる。

しかし客土直下に認められる重機のバケットの痕跡は、土盛り前に砂層の上位に堆積していた層を重機にて削平したことを物語る。この際、遺物包含層は、その大半を消失したと考えられる。



トレンチ配置図（scale：１／2,000）



基本層序

5．佐土原町下那珂字明神山　試掘調査

所 在 地：佐土原町下那珂字明神山
（北緯32度00分41秒、
東経131度28分55秒）
調査期間：平成20年５月１日
（実働１日）
調査面積：21.3m²
（調査対象98.0m²中）
調査原因：携帯電話鉄塔建設
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

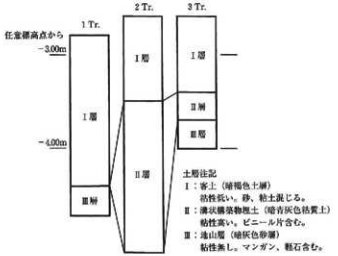
立地　調査地は、宮崎平野海岸部に形成された４本の砂丘列のうちの第２砂丘北端部付近に位置している。しかし、砂丘端部付近にあたる当地が、砂丘地であるか否かについては、これまでそれを判断しうる情報が得られず、不明確な状況であった。当地では、現在までのところ埋蔵文化財は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地である「明神山遺跡」、「竹ヶ島遺跡」に近接していたことや、埋蔵文化財包蔵地が集中する砂丘地に含まれている可能性があることなどから、開発に先立ち事前の試掘調査を実施した。

調査結果　調査地内に３本のトレンチを設け、バックホーを用いて堀下げをおこなった。トレンチは、調査地東側の砂丘との地形的関係を把握するため、東西方向に長軸を設定した。

掘下げの結果、すべてのトレンチにおいて客土が堆積していること、客土直下では、すでに地山層である青色の砂層が堆積していることが確認された。青色の砂層には、マンガンや軽石が含まれていたが、これらは、青色砂層中でもより下層にみられる特徴であり、調査地においては客土による盛土をおこなう以前に、大きく削平を受けていたと判断される。また、２、３トレンチでは、青色砂層を掘り込むように暗青灰色の粘質土が確認された。これは、堆積状況から南北方向に伸びる断面Ｕ字形の溝状構造物であると思われるが、粘質土中にビニールなどが含まれており、現代に掘削されたものと判断できる。

調査の結果、調査地全体において、地山まで削平が及んでいることが確認された。そのため、遺構の存在はもとより、当地の旧地形が、砂丘であったのか、低地であったのかについても確認することができなかった。また、遺物はまったく出土していない。

トレンチ配置図（scale：１／2,000）



土層柱状図

6．大字島之内字新川　試掘調査

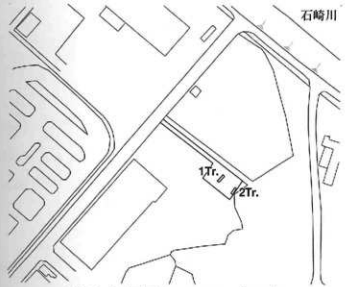
調 査 地：大字島之内字新川
（北緯32度00分06秒、
東経131度26分38秒）
調査期間：平成20年５月８日
（実働１日）
調査面積：８m²
（調査対象295m²中）
調査原因：携帯電話鉄塔建設
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／2,500）

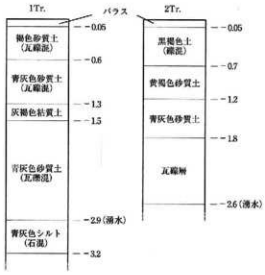
立地　当該地は現況では石崎川右岸に形成された自然堤防と見られる微高地上に位置する。現在まで文化財は確認されていないが、対岸に県指定史跡「広瀬村古墳」が存在し、微高地という立地条件から、当該地においても遺跡が存在する可能性があるため、開発に先立ち遺跡の有無確認の試掘調査を実施した。

調査結果　バックホーにより２本のトレンチを設定し調査を行った。両トレンチともに瓦礫混じりの客土が少なくとも３m前後堆積しており、当該地は自然堤防による微高地ではなく、現代の人為的な造成により形成された微高地であることが確認された。

１トレンチでは現地表から3.2mまで掘り下げたが地山と成り得る安定した層は検出されなかった。現地表から2.8～2.9m付近において湧水する点を含めて考えると旧河川内の低地を造成している可能性が高い。石崎川によって形成された本来の微高地は、当該地のやや南方に広がる集落部と考えられる。



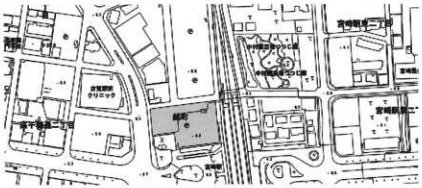
トレンチ配置図（scale：１／2,000）



基本層序

7．錦町　試掘調査

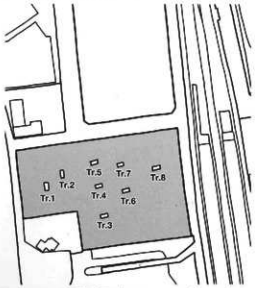
所 在 地：宮崎市錦町
（北緯31度54分57秒、
東経131度25分53秒）
調査期間：平成20年５月19～22日
（実働4日）
調査面積：48m²
（調査対象1,074m²中）
調査原因：公共施設建設
調査結果：埋蔵文化財無し



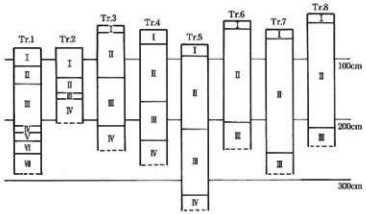
位置図（scale：１／5,000）

立地　当該地は大淀川河口付近の沖積地にあたる。日豊本線を挟んだ東側には、古墳時代を中心とする集落「浄土江遺跡」や「宮脇遺跡」があり、また当該地周辺には過去、内行花文鏡、画文帯神獣鏡を出土し、駅舎建設に伴って削平された「広島古墳群」が存在したとされることから、開発に先立ち、事前の埋蔵文化財試掘調査を実施した。

調査結果　事業予定地（以下、予定地）は現況駐車場のため、トレンチ設定箇所のアスファルトをカットした後、バックホーにより、８ヶ所にトレンチを設定、調査を行った。結果として、いずれのトレンチにおいても遺構は確認されなかったが、Tr.３のⅠ層から中近世の瓦片が、Tr.４のⅢb層から中世の坏片が出土している。予定地南西半のTr.１～４では明黄褐色砂（Ⅳ層）が地山として検出されたが、このⅣ層は、海岸部の砂丘列上を始め、多く市域平野部の遺跡において、遺構検出面となっている土と同種である。予定地北東半のTr.５～８ではⅣ層は堆積しておらず、湿性の高い暗灰色粘質土（Ⅲ層）が厚く堆積していた。この層は植物質やマンガン沈殿物を含有し、低湿地に堆積する土と思われる。つまり予定地は地形的な境部にあたり、南西部は黄砂を地山とした微高地の縁辺部、東側は低湿地にあたると考えられる。同様の状況は、予定地の南東に近接する「浄土江遺跡」周辺の試掘調査でも確認されており、当該地周辺の旧地形は、現在のＪＲ宮崎駅を境として、北側が低湿地、南側が微高地と復元できる。今後、この微高地部分において「広島古墳群」等の遺跡が確認される可能性は高い。



トレンチ配置図（scale：１／2,000）



Ⅰ：瓦礫層
Ⅱ：黄褐色砂層（客土）
Ⅲ：暗褐色粘質土層
Ⅳ：明褐色砂層
Ⅴ：暗灰色砂層
Ⅵ：明黄褐色砂層
Ⅶ：暗灰色砂層

基本層序

8．高岡町浦之名　試掘調査

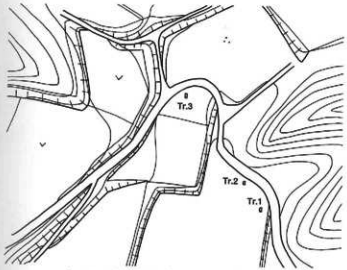
所 在 地：高岡町浦之名
（北緯31度56分52秒、
東経131度12分29秒）
調査期間：平成20年５月29日
（実働１日）
調査面積：９m²
（調査対象657m²中）
調査原因：農道整備
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

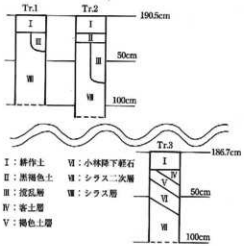
立地　大淀川中流域左岸に展開する、丘陵の頂部及びその付近に立地する。当地は畑２枚分に相当し、北側が標高190m、南側が標高186mと標高差が大きい。現在まで埋蔵文化財は確認されていないが、付近の丘陵には、旧石器～縄文時代早期の周知の遺跡である「小田元遺跡」「小田元第２遺跡」が立地することから、同じ立地条件にある当地においても埋蔵文化財が確認される可能性があるため、開発に先立ち、事前の試掘調査を行った。

調査結果　調査は作業員を投入して行った。北側の区域に設定した二ヶ所のトレンチのうちTr.１は、畑土の下位に一部撹乱を伴いながらもシラスの縞状堆積が認められ、包含層は既に消失していた。またTr.２は畑土の下位に炭を多く含む黒褐色土が認められ、その下位にシラスの縞状堆積が認められた。黒褐色土下位はシラスの縞状堆積を確認した。一部暗褐色土のブロックを含む撹乱層の落ち込みを認めたが、地元の方より、これは貯水タンク設置時の掘り込みとのご教示を得た。また、一段下に設定したTr.３は、褐色のローム層や小林降下軽石を確認したが、全体的に傾斜が急であり、どの層も撹乱状に堆積していた。

旧地形を復元すると、当区域は周辺の丘陵の中でも最頂部に当たる。地元の方によると、かつては現況より１m以上高く、焼礫や遺物が多量に散布する土地であったが、大規模に削平したとの事であった。段丘上より遺物包含層が認められないのはその影響であろう。いずれにせよ、現状において遺物包含層は確認されなかった。



トレンチ配置図（scale：１／2,000）



Ⅰ：耕作土
Ⅱ：黒褐色土
Ⅲ：撹乱層
Ⅳ：客土層
Ⅴ：褐色土層
Ⅵ：小林降下軽石
Ⅶ：シラス二次層
Ⅷ：シラス層

基本層序

9．丹後堀遺跡　確認調査

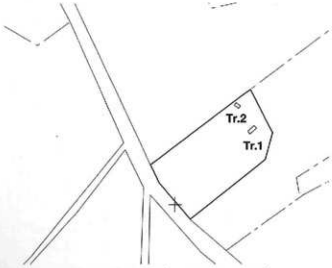
所 在 地：高岡町花見
（北緯31度57分12秒、
東経131度19分9秒）
調査期間：平成20年６月３日
（実働１日）
調査面積：14m²
（調査対象350m²中）
調査原因：携帯電話鉄塔建設
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

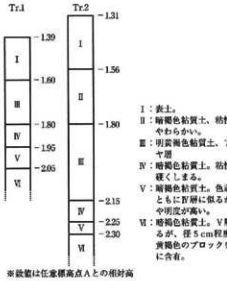
立地　当該地は宮崎平野の西方縁辺、大淀川左岸の通称花見台地上にある。台地上には旧石器・縄文時代を中心とする「横山第2遺跡」を始め、多数の遺跡が存在し、当該開発予定地（以下、予定地）も周知の埋蔵文化財包蔵地「丹後堀遺跡」内に位置する。当遺跡内には県指定史跡「高岡町古墳」の一つである五ツ塚古墳も存在し、過去、玉類の出土したとされる。予定地は「丹後堀遺跡」の北西端部にあたり、現況は畑地として利用されている。

調査結果　予定地では現況、畑地としての利用を行っており、重機の搬入が困難であったことから、人力によりトレンチ２本を設定、調査を行った。予定地南東端に南北方向で設定したTr.１では、現地表より20cmほどの深さにおいて、表土直下にアカホヤ火山灰層を確認したが、大部分は大きく削平を受け、トレンチ南端において、かろうじて残存を確認できたに過ぎない。予定地西端に設定したTr.２は、Tr.１に比して堆積の残存状態が良好で、アカホヤ火山灰層上の堆積から確認することができた。ただし、アカホヤ層以下の堆積において、Tr.１検出の各層との相対高が各々20～30cmに及び、Tr.１からTr.２にかけて、即ち予定地の東側から西側にかけて、大きく下る地形であったことが知れ、予定地は旧地形において台地の縁辺にあたることが確認された。

以上、当該地は台地の縁辺および斜面にあたること、また平坦部においてはアカホヤ層下まで大きく削平を受けていることが確認された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地であるが、少なくとも、開発範囲においては、文化財は残存していないと判断される。



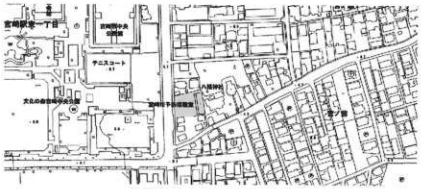
トレンチ配置図（scale：１／800）



土層柱状図

10．曽師遺跡　確認調査

所 在 地：宮脇町
（北緯31度54分46秒、
東経131度26分9秒）
調査期間：平成20年６月４・５日
（実働２日）
調査面積：110m²
（調査対象1,209m²）
調査原因：駐車場整備
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：現状保存



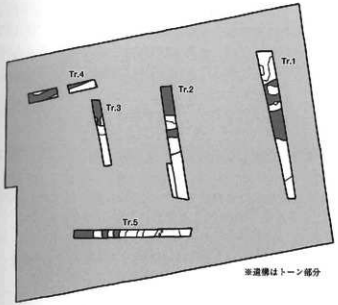
位置図（scale：１／5,000）

立地　調査地は、新別府川と大淀川に挟まれた地点に形成される微高地に位置する。当地は、宮崎市立体育館の駐車場が整備される予定であるが、周知の埋蔵文化財包蔵地である曽師遺跡の域内に当たることから、調査に先立ち、確認調査を実施した。

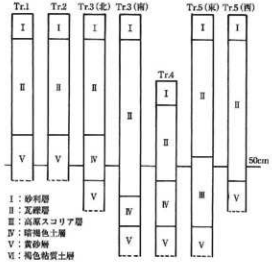
調査の結果　南北方向に３本のトレンチを設定し、バックホウにて遺構の有無を確認した。その結果、地表面に敷設された砂利層（Ⅰ層）を取り除くと、下位より瓦やコンクリ、石、レンガ片等からなる廃材を多量に含んだ粘質土層（Ⅱ層）を確認した。更に下位には、地山と見られる黄褐色シルト質層または砂層（Ⅴ層）を確認した。層上面より近代以降の掘り込みを多く確認したが、その中に褐色ロームによって構成される遺構を確認した。遺構はその大きさ、深さなどから竪穴建物もしくは溝と見られる。

調査区東側は、後世の削平によりⅤ層まで破壊され、西側が傾斜によって辛うじて残った状況である。なお、遺物の出土は遺構内を中心としており、包含層中の遺物はごく微量に留まった。

駐車場整備は数十cm程度の嵩上げという形で行われ、進入路のみ一部削平を伴うが、この部分にしても舗装は遺構検出面に及ばないことから、工事による文化財の影響はないと考えた。



トレンチ配置図（scale：１／5,000）



基本層序

11. 高岡麓遺跡　確認調査

調 査 地：高岡町飯田
（北緯31度57分18秒、
東経131度18分21秒）
調査期間：平成20年６月５・６日
・６月30日～７月１日
（実働４日）
調査面積：110m²
（調査対象6,150m²中）
調査原因：土地区画整理
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：本調査（遺構確認部分）

位置図（scale：１／5,000）

立地　当該地は大淀川左岸に飯田川の堆積作用によって形成された微高地に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「高岡麓遺跡」の一部に含まれていることから、開発に先立ち事前に確認調査を行った。また調査対象地の一部では現況において近世墓、五輪塔の存在が確認できる状況であった。

調査結果　バックホー及び人力により25ヶ所のトレンチを設定し調査を行った。

１Trは現況において確認された近世墓、五輪塔に近接する位置に設定した。バックホーにより表土剥ぎを行った後、人力によって検出作業を行ったところ、近世墓、もしくは五輪塔の下部構造と見られる敷石を検出した。敷石中には凝灰岩を方形、円形に加工したものも配置され、倒壊した五輪塔の風輪、空輪と見られる加工された石材も検出された。敷石周辺の状況を確認するため、１Trの南、東にそれぞれ２、３Trを設定し掘り下げを行ったが、敷石の広がりは確認できず広範に広がるものではないことを確認した。

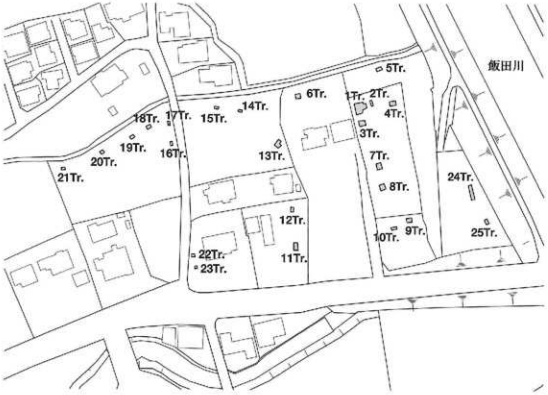
２、３Trを含めその他のTrでは遺構、遺物は確認できなかった。２～４、７、８Trでは現地表から－30cm前後で黄褐色粘質土の地山が検出されたが、調査対象地内でも南部に位置する９～11Trでは地山の検出面が現地表から－50～90cmと深くなっており、８Tr以南は地山が緩やかに下降傾斜していると考えられる。

また１Trのすぐ北側で地形が一段低くなるが、そこに設定した５Trは現代の陶磁器を含む客土が90cm以上堆積していた。６Trはマンガンと思われる赤色粒子を含んだ茶褐色土が厚く堆積しており旧地形は低湿地であったと想定される。現地表から１m掘り下げたところで湧水し地山は確認できなかった。同様に14、15Trでも水成堆積と思われる層が現地表から１m程度掘り下げた位置で確認され、調査区のすぐ北側流れる水路（小河川）が以前は蛇行していたということから、これらの水成堆積は旧水路（小河川）によるものである可能性が高い。

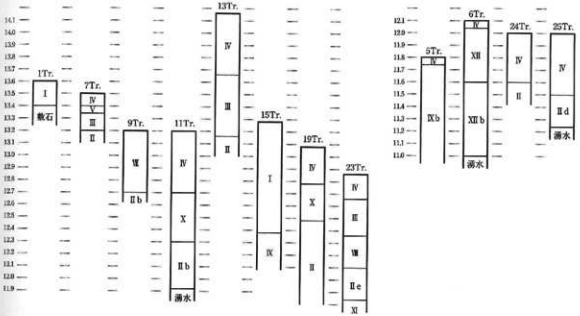
16～18Trにおいては何れも現地表から－30cm前後において良好な状況で地山が検出されたが、遺構の存在は確認されず、遺物も全く出土しなかった。

23Trでは地山上に２層の堆積層が確認されたが、遺物は出土しなかった。民家の庭であることから近現代の造成と考えられる。

飯田川に近接する24、25Trでは、旧河川と想定される落ち込みが検出された。24Trは南半付近から南側へ向かって落ち込みが検出され、25Trでは旧河川によるものと思われる水成堆積が全面に広がっていた。調査地から道を挟んだ南西側では、現況においても旧河川が埋め立てられずに残されており、今回検出された落ち込みはその延長とみられる。８Tr以南が緩やかに下降傾斜している原因も、この旧河川に向かって地形が落ち込んでいるためと考えられる。



トレンチ配置図（scale：１／1,600）



Ⅰ．灰褐色粘質土（客土）
Ⅱ．黄褐色粘質土（地山）
Ⅲ．暗褐色粘質土
Ⅳ．表土・耕作土
Ⅴ．黄褐色粘質土による造成
Ⅵ．バラス
Ⅶ．青灰色砂質土（グライ化）
Ⅷ．茶褐色粘質土
Ⅸ．灰褐色粘質土＋茶褐色土
Ⅹ．褐色粘質土（地山）
Ⅺ．茶褐色砂
Ⅻ．褐色粘土（暗赤色粒子含む）
Ⅰb．灰褐色粘質土＋茶褐色土（現代磁器含む）
Ⅱb．黄褐色粘土（地山）
Ⅱc．黄褐色粘土＋黄白色粘土（ブロック）
Ⅱd．Ⅱにマンガンが多量に含まれしまりがない
Ⅻb．茶褐色粘土（暗赤色粒子含む）

基本層序

12. 内之八重第１遺跡　確認調査

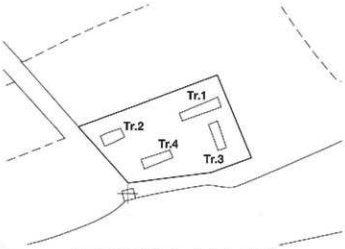
所 在 地：高岡町上倉永字内之八重
（北緯31度52分35秒、東経131度18分49秒）
調査期間：平成20年６月17日（実働１日）
調査面積：20.3m²
（調査対象194m²中）
調査原因：携帯電話鉄塔建設
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

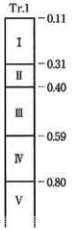
立地　当該地は宮崎平野の縁辺を形成する内陸丘陵地帯にある。飯田川に面した丘陵の段丘面にあたり、平坦面全体が、縄文・中世・近世の周知の埋蔵文化財包蔵地「内之八重第１遺跡」となっている。また飯田川を挟んだ対岸の台地上には、堀口第１遺跡をはじめ、おもに縄文時代の遺跡が多数存在する。当該開発予定地（以下、予定地）は、丘陵平坦面の縁辺にあたり、数年前まで畑地として利用されていたが、現在は荒蕪地となっている。

調査結果　バックホーにより４本のトレンチを設定、調査を行った。予定地北東端に設定したTr.１では、現地表より深約20cmで地山を検出したが、トレンチ西半では現地表より深約70cmまで大きく削平を受けている。この状況は予定地北西端に設定したTr.４においても確認された。地形的に丘陵平坦面の縁にあたる予定地南半に設定したTr.２・３では、近世かと思しき溝状遺構を検出した。東西方向に設定したTr.２において、地山上に堆積した褐色土中から、近世陶磁器片１点を検出したため、Tr.２と直交する方向にTr.３を設定したところ、地山上で東西方向の溝状遺構を検出した。検出面での上端幅1.3mであるが、一部掘削を行ったところ、検出面よりわずか10cmほどで底面に達した。検出面直上まで客土が堆積しているため、本来は箱堀状の断面形で、大きく削平を受けているものと思われる。また、溝の流れから見て、Tr.２もその一部と考えられ、Tr.２出土の近世陶磁片は、この溝状遺構に伴うものかと考えられる。またTr.２の客土中からは、16世紀台の青花皿片も出土している。

以上、陶磁器片数点が確認されたものの、全面的に削平が大きく、明確な遺構の遺存は認められなかった。



トレンチ配置図（scale：１／500）



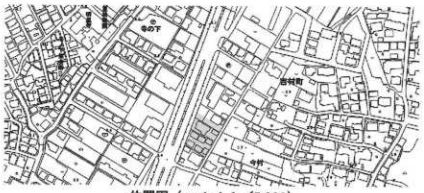
Ⅰ：表土。
Ⅱ：褐色粘質土。Ⅲへの漸移層。
Ⅲ：明黄褐色粘質土。地山。粒子が細かく、水分をあまり含まない。
Ⅳ：明黄褐色粘土。水分を多量に含み、しまりあり。やわらかい。
Ⅴ：褐色粘質土。礫を多量に含む。

※数値は任意標高点との相対高

土層柱状図

13. 吉村町今村　試掘調査

所 在 地：吉村町今村
（北緯31度54分46秒、東経131度26分54秒）
調査期間：平成20年６月18日・７月10日（実働２日）
調査面積：73.5m²
（調査対象2,091m²）
調査原因：区画整理
調査結果：埋蔵文化財無し

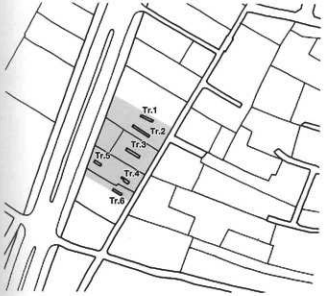


位置図（scale：１／5,000）

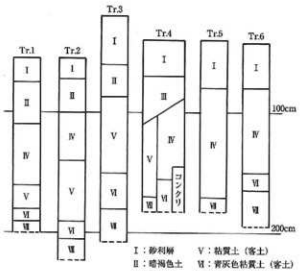
立地　大淀川河口付近の左岸に展開する微高地上に立地する。対象地は現在まで埋蔵文化財は確認されていないが、隣接地に周知の埋蔵文化財包蔵地である「今村遺跡」が立地することから、開発に先立ち、事前の試掘調査を行った。

調査結果　調査は重機を用いて行った。その結果、調査区一帯には砂利層が20～40cmと分厚く盛られ、その下位にも客土層が、瓦礫を伴ったり、青灰色の粘質土を主体としたりしながら50cm以上も盛られている状況を認めた。中でもTr.４は、瓦礫層の下位からコンクリートブロックの列が確認されたことから、整地前に建っていた家屋の基礎と考えられる。瓦礫層は、重機での持ち上げが不可能なほど大きなものも多かったため、調査はしばしば中止を余儀なくされた。客土の下位は、砂丘形成後の堆積層であり、遺物を包含する可能性のある暗黄褐色粘質土が確認されたものの、Tr.２・３のみに留まり、他のトレンチからは黄褐色砂層や黄褐色粘質土等が現れた。

調査区内は、現地表面より低い土地に家屋が立ち並んでいたが、その後家屋を廃棄する際、一部黄褐色粘質土層まで削り取り、瓦礫等によって盛ったと考えられる。



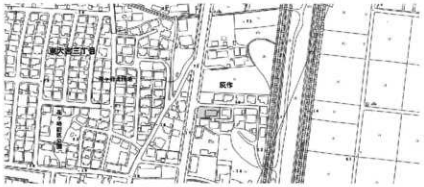
トレンチ配置図（scale：１／2,500）



基本層序

14. 村角町灰作　試掘調査

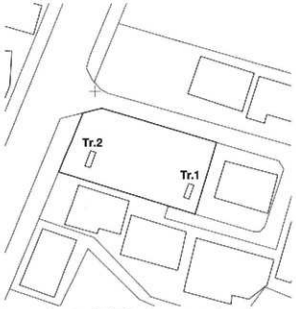
所 在 地：村角町灰作
（北緯31度56分52秒、
東経131度26分32秒）
調査期間：平成20年６月19日
（実働１日）
調査面積：7.4m²
（調査対象456.4m²中）
調査原因：共同住宅建築
調査結果：埋蔵文化財無し



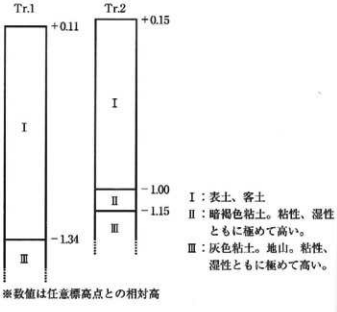
位置図（scale：１／5,000）

立地　当該地は宮崎平野砂丘列の最も内陸に位置する第１砂丘と、内陸丘陵地帯との間に広がる堤間低地中に位置する。当該地は現在、雁ヶ音団地などの住宅密集地となっている東大宮地区に隣接するが、この東大宮地区一帯は、明治期などの旧地図によると、低地帯中の微高地であったように見受けられる。東大宮地区の北方200mほどには、同じく低地帯中の微高地である桜町遺跡（弥生時代・古代）があり、東大宮地区においても同種の遺跡が存在する可能性がある。調査対象地一帯は現在、小規模な宅地となっているが、地図上では東大宮地区から東側に飛び出した舌状の微高地のようにも見受けられ、今回、微高地の範囲確認および微高地上における遺跡の有無確認のため、試掘調査実施の運びとなった。

調査結果　バックホーにより２本のトレンチを設定、調査を行った。東側に設定したTr.１では、現地表より1.45mの深さまで削平が及び、以下は水分を多量に含んだ灰色粘土の地山となる。西側で設定したTr.２では、現地表より1.15mまで客土が入り、1.30mの深さにおいてTr.１と同種の地山を確認できたが、その間には水分を多量に含んだ暗褐色粘土が堆積していた。同種の土は、堤間低地で広く認められ、地山の様相も、低地におけるそれである。また客土中からの遺物の出土等もなく、当該地は本来、低地中の微高地ではなく、低地そのものであることが確認できた。



トレンチ配置図（scale：１／800）



土層柱状図

15. 神宮西２丁目　試掘調査

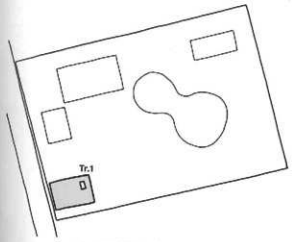
所 在 地：神宮西２丁目
（北緯31度56分22秒、
東経131度25分5秒）
調査期間：平成20年６月26日
（実働１日）
調査面積：３m²
（調査対象30m²）
調査原因：防火水槽設置
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

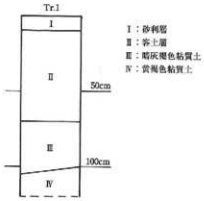
立地　大淀川下流の、川南側へ大きく蛇行する地点の左岸に展開する微高地上に立地する。調査地は、現在まで埋蔵文化財は確認されていないが、南北に周知の埋蔵文化財包蔵地である「船塚遺跡」、「大宮中学校遺跡」が隣接することから、開発に先立ち、事前の試掘調査を行った。

調査結果　調査は人力によって掘削した。その結果、表層は砂利層が全面を覆っていたが（Ⅰ層）、その下位には砂と粘質土からなる黄褐色の層が現れた（Ⅱ層）。層中の砂と粘土は大小のブロックを形成することから、公園造成に伴う盛土層と考えられる。この層を更に掘り下げると、下位に暗灰褐色の粘質土が現れた（Ⅲ層）。層は粘性に富み、上下の層より比較的軟質であった。層中には小粒の円礫が多いほか、鉄錆の赤化によって斑紋が形成されるなど、堆積前後において強い水性作用が認められた。また、層中における遺物の出土は皆無であった。更に掘り進めると、黄褐色の粘質土層が現れた（Ⅳ層）。層は著しく硬く、粒子も細かいことから地山と考えられる。上面で小規模の凹凸を伴っていたために遺構の存在を疑ったが、至って小規模の凹凸が不規則に続き、遺構と積極的に判断できる要素はなかった。調査を通して遺物は確認されなかった。

後日工事中に現地を確認したところ、水が溜まっていた。地下２m付近より湧水したという。



トレンチ配置図（scale：１／700）



基本層序

16. 波島町　試掘調査

所 在 地：波島２丁目
（北緯31度56分13秒、
東経131度26分52秒）
調査期間：平成20年６月26日
（実働１日）
調査面積：４m²
（調査対象30m²）
調査原因：防火水槽設置
調査結果：埋蔵文化財無し

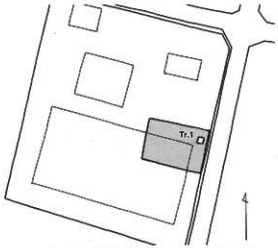
位置図（scale：１／5,000）

立地　宮崎平野に連なる砂丘群の中で、最も西に位置する第１砂丘の南側に立地する。浜堤を横断した場合、当地は最上部よりやや西側に位置することから、現地形は西側に下る勾配がついていたものと推測される。なお、当地は重要遺跡集中区内にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地である「平原第１遺跡」、「萩崎第１遺跡」が近接することから、開発に先立って試掘調査が行われた。

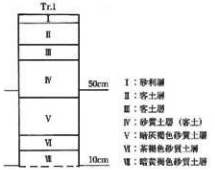
調査結果　調査は人力によって掘削した。表層には砂利混じりの層（Ⅰ層）、下位は公園整備の際の攪乱層（Ⅱ層）、現代の廃棄物が多く混入する灰褐色粘質土層（Ⅲ層）が確認された。これらは客土と考えられる。その下位は硬くしまった灰褐色砂層（Ⅳ層）であり、公園整地前の地表面と考えられる。続く灰褐色砂層（Ⅴ層）は軟質であり、焼土粒子や高原スコリアが確認された。更に下層の茶褐色砂質土（Ⅵ層）は、高原スコリアの混入はなく、古代以前の堆積層と判断した。その下位の黄褐色の砂質土（Ⅶ層）は著しく軟質であり、地山と考えられる。

今回調査を行った層のうち、文化財に関連する層はⅥ層ということになろう。層中の混入物は、隣接地において埋蔵文化財が存在したことを示している。しかし、結局のところ粒子大の焼土粒が僅かに認められる程度であったことも事実であり、集落地等の土地利用は行われなかったと考えられる。予定地が斜面であることを想定すると、埋蔵文化財は浜堤稜上に位置した可能性が高い。また、古代の遺構検出面であるⅥ層の堆積中においては、埋蔵文化財は残されなかったようである。

しかし埋蔵文化財が付近に存在する可能性が高いことは間違いなく、今後も継続して注意を払う必要がある。



トレンチ配置図（scale：１／700）



基本層序

17. 高岡麓遺跡30地点　確認調査

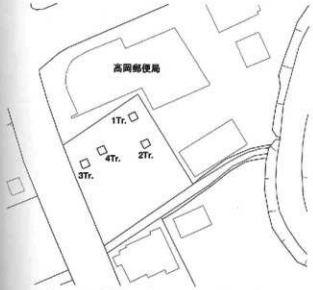
所 在 地：高岡町飯田
（北緯31度57分16秒、
東経131度18分18秒）
調査期間：平成20年６月26・27日
（実働２日）
調査面積：16m²
（調査対象335m²中）
調査原因：区画整理
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

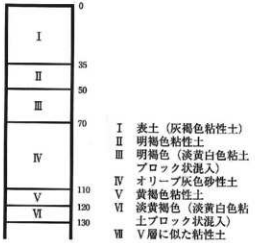
立地　大淀川とその支流である飯田川により形成された微高地に位置する。近世期に鹿児島藩の麓を形成していたことから、周知の遺跡である「高岡麓遺跡」の範囲に入る。今回の調査地点北側の高岡郵便局は平成６年度に宮崎県教育委員会が発掘調査を実施し、近世期と古墳時代の集落跡を確認している。

調査結果　２m×２mのトレンチを４箇所設定して調査を行なった。調査地は民家を壊して更地にしている。表土部分は10cm～30cmの深さで攪拌されている。中近世期の遺構検出面と同等面は、３Trで深さ約10cm、それ以外のトレンチで深さ約30cm前後で確認される。その面からは、地山混入の暗灰褐色粘性土を埋土とする攪乱坑を多数検出する傍ら、明確な中近世の遺構は確認されなかった。ただ、１Trで径20cm程の濁った黄褐色粘性土を埋土とするピット１基、２Trで焼土と炭が混入した地山に似た埋土をもつ径15cm程のピットを２基（遺物無し）確認した。２Trで確認したピットは、過去に本調査を行った地点でも確認されているが、すべて遺物の出土は無く、時期は不明である。

次にその下位層（Ⅲ層）は、淡黄白色粘土がブロック状に堆積している粘土層である。この層が高岡郵便局敷地内で確認された古墳時代の層に相当するものと思われるが、トレンチからは遺構・遺物は、全く確認されなかった。その下位には、オリーブ灰色砂性土が深く堆積しており、さらにその下位には古墳時代の層に似た粘土層が堆積している。



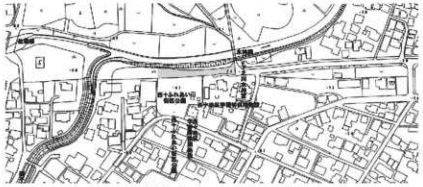
トレンチ配置図（scale：１／1,000）



基本層序

18. 佐土原町上田島　試掘調査

所 在 地：宮崎市佐土原町上田島
（北緯31度51分33秒、
東経131度25分58秒）
調査期間：平成20年７月１日
（実働１日）
調査面積：８m²
（調査対象826m²）
調査原因：道路敷設
調査結果：埋蔵文化財無し

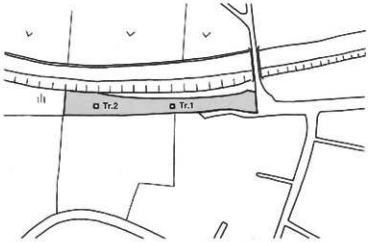


位置図（scale：１／5,000）

立地　追手川が北へと流路を変え、三財川に合流する直前の右岸に延びる、かつての国鉄妻線の線路上が調査対象地である。現在まで埋蔵文化財は確認されていないが、安政期と伝えられる「佐土原城下図」の城下町部分に当たることから、開発に先立ち、事前の試掘調査を行った。

調査結果　調査は重機を用いて行った。トレンチは二ヶ所設定したが、基本的な堆積状況はどちらも同様であった。まず地表面下は、線路下に敷設される砂利層（Ⅰ層）があり、その下位に粗砂の混ざった砂利層（Ⅱ層）、続いて細粒砂層（Ⅲ層）が堆積する。このⅢ層下面までの間に堆積は１m～1.3mに達しており、隣接する公園とほぼ同じ高さになる。これらは、線路構築時の盛土と予想される。その下位は、砂層を基調としながら粘質土のブロックが多く混入する層となり、その土質から依然として盛土が継続する。部分的に粘質土や砂利層を認めるものの、やはり盛土層であり、その傾向は２m30cmを越えた重機の掘削限界点まで変化がなかった。なお、盛土層であることや、砂層を基調としていることから、掘削中の崩落が激しかった。

地元の方の話によると、「追手川は大雨の度に流路が変わる暴れ川であったが、妻線の建設にあたって現在の流路に矯正される前は、今回の試掘調査区である線路上～西十ふれあい広場の北側一帯を流路としていた」との事であった。実際、調査によって確認された、Ⅲ層以下の分厚い堆積は、線路構築を前提に行われた河川改修によって、急激に落ち込んだ地形を埋めた時の盛土層と考えられる。河床であったかは定かでないが、中・近世の堆積層がそうした急激な落ち込みの下位に形成されたとは考えにくく、もし存在したとしても工事による影響はまずないと思われる。



トレンチ配置図（scale：１／2,000）

基本層序

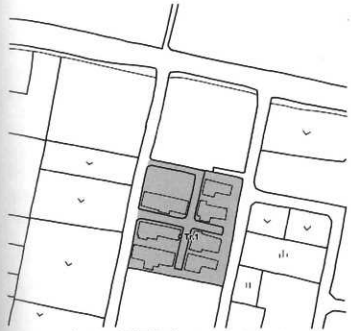
19. 田野町乙　試掘調査

所 在 地：田野町乙
（北緯31度50分13秒、
東経131度17分41秒）
調査期間：平成20年７月３日
（実働１日）
調査面積：３m²
（調査対象2,819m²）
調査原因：団地建替
調査結果：埋蔵文化財無し

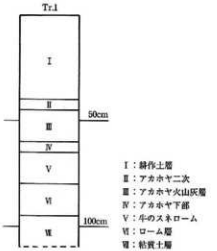
位置図（scale：１／5,000）

立地　調査地は田野盆地のやや西よりに位置する。南北に流れる清武川・井倉川により地形的に隔てられているが、台地上は平坦である。現在まで埋蔵文化財は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地である「南原第１遺跡」に隣接することから、開発に先立ち、事前の試掘調査を行った。

調査結果　団地の間にある菜園部分に一ヶ所トレンチを設定し、堆積状況を確認しながら人力で調査を行った。地表面下には菜園の耕作土層（Ⅰ層）が生活廃棄物と共に分厚く堆積し、下位にはアカホヤ火山灰層（Ⅱ～Ⅳ層）が、漸移層も含めて40cmと分厚く堆積していた。この上面において遺構の検出作業を行ったが、確認されなかった。更に下位には牛のスネローム層（Ⅴ層）、暗褐色の早期ローム層（Ⅵ層）が確認されたが、どちらも堆積は15cmと、通常田野盆地で確認される堆積の半分程度であり、粘質土層（Ⅶ層）と至る。Ⅳ層からは指先大～その１/３程度の大きさの砂岩製の円礫が3点出土したが、人為的な痕跡は全く認められなかった。



トレンチ配置図（scale：１／2,000）



基本層序

20. 田野町乙　試掘調査

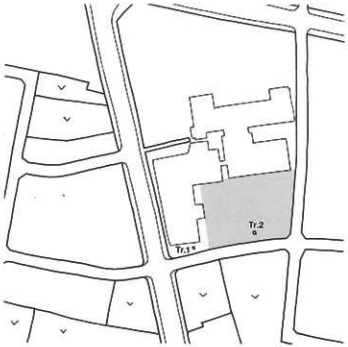
所 在 地：田野町乙
（北緯31度51分９秒、
東経131度17分49秒）
調査期間：平成20年７月３・４日
（実働２日）
調査面積：３m²
（調査対象798m²）
調査原因：病院等整備事業
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

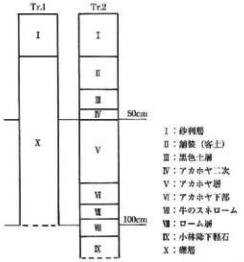
立地　調査地は田野盆地のやや西よりに位置する。南北に流れる清武川・井倉川により地形的に隔てられているが、台地上は平坦である。現在まで埋蔵文化財は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地である「南原第１遺跡」に隣接することから、開発に先立ち、事前の試掘調査を行った。

調査結果　病院建替え部分の隣接地にある駐車場部分について、トレンチを２ヶ所設定し、人力で調査を行った。Tr.１は、駐車場敷設時と思われる砂利層が20cmほど堆積し、その下位は人頭大の礫層が確認された。周囲の堆積状況と比較すると、これは病院建築時の削平と考えられる。

Tr.２は、地表面下に駐車場敷設時の砂利層（Ⅰ層）が確認され、更に下位からアカホヤ火山灰層上位の黒色土層（Ⅲ層）が、著しく硬化した形で確認された。その下位はアカホヤ火山灰層（Ⅳ～Ⅵ層）が45cmも堆積していた。なお、この上面において遺構の有無を確認したが、検出されなかった。Ⅵ層下位には、牛のスネローム層（Ⅶ層）、暗褐色のローム層（Ⅷ層）が確認されたが、堆積は合計15cm程度に留まり、その後小林降下軽石層（Ⅸ層）となる。層中の混入物は、Ⅴ層から砂岩製の小礫が１点出土したのみであった。



トレンチ配置図（scale：１／2,000）



基本層序

21. 中野原第１遺跡　確認調査

所 在 地：高岡町小山田
（北緯31度56分16秒、
東経131度18分8秒）
調査期間：平成20年７月14～18日
・9月25日
（実働６日）
調査面積：260m²
（調査対象約15,000m²中）
調査原因：畜産団地建設
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：現状保存

位置図（scale：１／5,000）

立地　当該地は宮崎平野の縁辺を形成する内陸丘陵地帯に位置する標高60～70mの丘陵上平坦面で、周知の埋蔵文化財包蔵地「中野原第１遺跡」となっている。一帯は国指定史跡「穆佐城跡」を主として中・近世の文物が多く、中野原第１遺跡もまた中・近世の遺物散布地として認識されている。ただし当該地は、県営ふるさと農道整備事業に伴い、平成12年度に発掘調査が行われ、旧石器時代、縄文時代の遺構、遺物が確認された永迫第1遺跡、永迫第２遺跡と狭小な道を挟んだ対岸に位置し、立地及び地形的な近似度から、同種の遺構・遺物が確認される可能性も極めて高い。

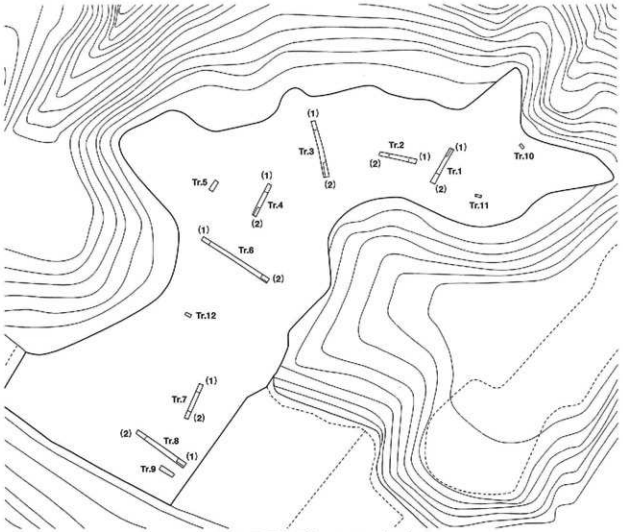
調査結果　バックホーにより12本のトレンチ、及びトレンチ内に14ヶ所の深掘地点を設け、調査を行った。当該地の土層は、Ⅰ層：表・客土、Ⅱ層：アカホヤ火山灰層、Ⅲ層：牛のすねローム層、Ⅳ層：褐色土層（早期ローム）、Ⅴ層：小林軽石混土層、Ⅵ層：ローム層、Ⅶ層：姶良丹沢火山灰層（ＡＴ・シラス）の順で堆積している。このうち、Ⅱ～Ⅴ層が縄文時代、Ⅴ～Ⅶ層が旧石器時代に堆積した土である。

当該地の堆積状況では、弥生時代以降の遺構は、Ⅱ層のアカホヤ火山灰層上面に形成されることになるが、トレンチの全面精査の結果、Ⅱ層上面においては、遺構、遺物ともに検出されなかった。

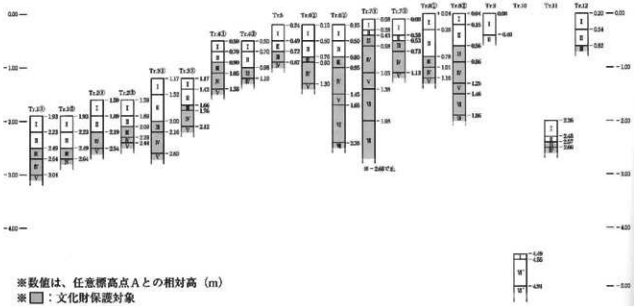
アカホヤ火山灰層以下の掘り下げ、確認作業は、各トレンチ内に設けた計14ヶ所の深掘地点にて行った。結果、Ⅲ層の牛のすねローム層下位、Ⅳ層の褐色土層上面において、人間活動の痕跡である焼礫が検出された。Ⅳ層は縄文時代早期（約１万年前）に堆積した土であるため、Ⅳ層上面が縄文時代早期の生活面、その上のⅢ層が遺物包含層として位置付けられる。焼礫は計６点検出され、検出地点は予定地北東端のTr.１①及び②、予定地中央のTr.５、予定地南端のTr.８①の４ヶ所である。特定箇所への偏重はなく、予定地全面のⅢ層及びⅣ層が縄文時代早期の埋蔵文化財含有層となる。

また近接する永迫第２遺跡調査時には、今回確認調査箇所のⅣ層に相当する土より下位の堆積土からも、旧石器時代、縄文時代の遺構・遺物が検出されている。今回の調査においては、３ヶ所でⅤ層以下への掘削を行い、遺構・遺物の検出はなかったものの、永迫第２遺跡において遺構・遺物の検出されたものと同種の土（Ⅴ・Ⅵ層）が良好に堆積していることが確認された。そのため、当該地においても同種の遺構・遺物が存在する可能性が高い。また永迫第２遺跡では、Ⅶ層に相当する土より下位の堆積中からも旧石器時代の遺物が出土しており、当該地においても同種の遺物含有層の存在する可能性が高い。しかしバックホーの可能とする掘削深を越えたため、今回調査においては検出に至っていない。

結論として、予定地全面において、Ⅲ層以下を埋蔵文化財保護の対象とする。調査原因となった工事においては、工事掘削がⅢ層まで達しないため、現状保存措置とし、施工時には文化財担当職員による工事立会いを実施することとした。



トレンチ配置図（scale：1／750）



※数値は、任意標高点Aとの相対高（m）
※□：文化財保護対象

土層柱状図

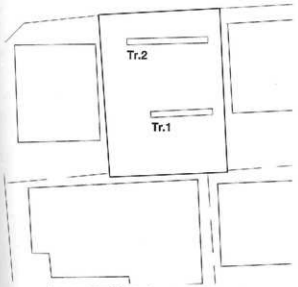
22. 祇園４丁目　試掘調査

所 在 地：祇園４丁目
（北緯31度56分24秒、
東経131度24分39秒）
調査期間：平成20年７月22日
（実働１日）
調査面積：４m²
（調査対象258m²中）
調査原因：共同住宅建築
調査結果：埋蔵文化財無し

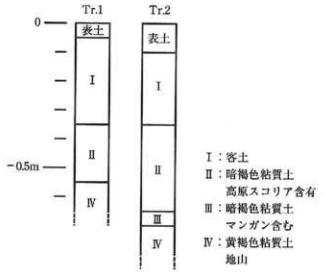
位置図（scale：1／5,000）

立地　開発予定地は、台地全体が遺跡となっている下北方遺跡群の麓、大淀川との間の低地中にある。同じく低地中には近接して周知の埋蔵文化財包蔵地「宮大農園遺跡」があり、また下北方台地の東側低地中には台地上の人々の生産空間と考えられる水田遺構の検出された「垣下遺跡」があり、当該地に近接するとは言えないものの、立地は共通する。

調査結果　人力により３本のトレンチを設定、調査を行った。予定地の南西端に設定したTr.１においては、現地表より30cmの深さにおいて、霧島高原スコリア（10～13世紀降灰）をまばらに含有する暗褐色粘質土が20cmほどの厚さで堆積し、その下は黄褐色粘質土による地山となる。また客土中には土器細片も含有される。予定地北東端に設定したTr.２においては、現地表より30cmにおいてTr.１と同じく霧島高原スコリアを含有する暗褐色粘質土が30cmほど堆積し、その下にマンガンの沈殿物を含んだ暗褐色粘質土が堆積する。敷地内でも川から遠いTr.２の様相は低湿地を思わせるものであるが、反対側のTr.１では遺構等が形成されても不思議ではない様相であった。台地の裾部、麓にあたることもあり、複雑な地形であると思われる。当該地においては埋蔵文化財無しとの判断であるが、今後も、周辺においては埋蔵文化財の存在に留意する必要がある。



トレンチ配置図（scale：1／150）



土層柱状図

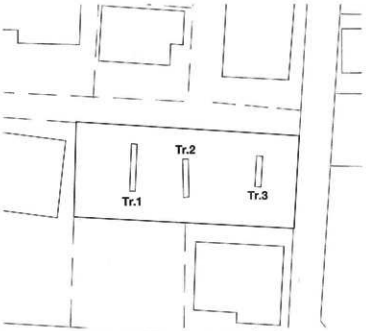
23. 船塚３丁目　試掘調査

所 在 地：船塚３丁目
（北緯31度55分54秒、
東経131度25分13秒）
調査期間：平成20年７月24日
（実働１日）
調査面積：10.8m²
（調査対象329m²中）
調査原因：文化財保護法第95条
調査結果：埋蔵文化財無し

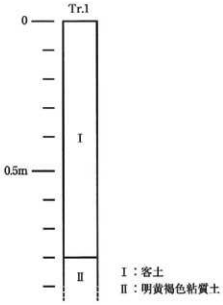
位置図（scale：１／5,000）

立地　当該地一帯は、旧石器時代から近世までの複合遺跡である周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」ののる下北方台地の南方に広がる低地中の微高地にあたる。同微高地中には古墳時代後期の前方後円墳である「船塚古墳」や、周知の埋蔵文化財包蔵地「船塚遺跡」「宮大農園遺跡」などがあるが、微高地上の遺跡の様相、性格等は今ひとつ明確ではない。今回の調査は、微高地の範囲確定等を目的として実施した。

調査結果　バックホーにより３本のトレンチを設定、調査を行った。結果として、いずれも現地表より１ｍまで最近の埋め立て土が入り、検出された地山は明黄褐色粘質土であった。この層は、宮崎平野海岸部の、砂堤列や、砂を基盤とする微高地において、多く遺構形成、検出面となる層に近い。当該地で検出されたものは水分を多く含み、粘質土に変成しているが、本来的にはこの遺構形成、検出面となる層と同種のものと思われる。ただし、検出高からみて、当該地においては大きく削平されている可能性が高い。客土中からの遺物の検出もなく、当該地においては埋蔵文化財無しと判断されるが、今後、周辺における埋蔵文化財の有無には留意する必要がある。



トレンチ配置図（scale：１／150）



土層柱状図

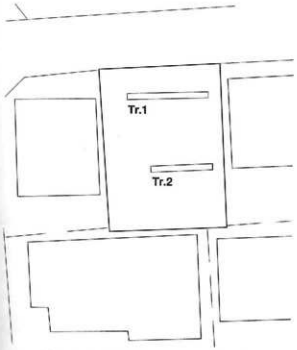
24. 霧島５丁目　試掘調査

所 在 地：霧島５丁目
（北緯31度56分14秒、
東経131度24分52秒）
調査期間：平成20年７月25日
（実働１日）
調査面積：13.7m²
（調査対象203.31m²中）
調査原因：個人住宅建設
調査結果：埋蔵文化財未確認
調査後措置：現状保存

位置図（scale：１／5,000）

立地　開発予定地は、大淀川の河畔、微高地上に位置する。同微高地上には、予定地に近接して周知の埋蔵文化財包蔵地「宮大農園遺跡」「船塚遺跡」があり、また予定地が微高地の際に位置する可能性があることから、遺跡有無確認および地形確認のため、調査を実施することとした。

調査結果　バックホーにより２本のトレンチを設定、調査を行った。結果として、両トレンチともバックホーの限界により、客土を抜けることができず、地山を確認することができなかった。現状では予定地より西側に向かって、地形的に大きく下っており、大淀川の氾濫原となる。一体は大規模な埋め立てにより、現状の地形になったかと思われる。今回調査においては地山検出に至らず、また客土中から遺物の出土等もなかったため、埋蔵文化財の有無について断定することはできなかったが、工事計画においては、工事掘削が今回確認した客土堆積の深さを超えることはないため、埋蔵文化財未確認ながら、現状保存措置とした。



トレンチ配置図（scale：１／150）

土層柱状図

25. 高岡麓遺跡　確認調査

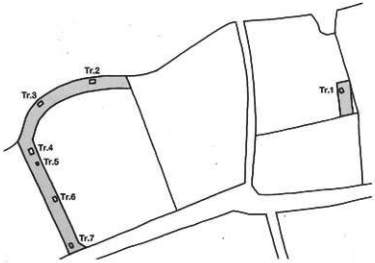
所 在 地：高岡町飯田
（北緯31度57分28秒、
東経131度18分７秒）
調査期間：平成20年７月28日
～30日（実働３日）
調査面積：13m²
（調査対象465m²）
調査原因：区画整理
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：協議中

位置図（scale：１／5,000）

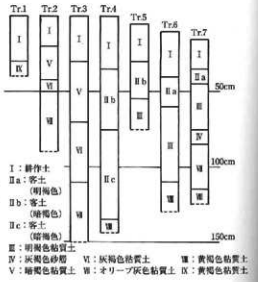
立地　大淀川とその支流である飯田川により形成された微高地上に位置する。一帯は、近世期に薩藩外城の麓集落が形成されていたことから、周知の埋蔵文化財包蔵地である「高岡麓遺跡」の域内である。今回の調査地点は、高岡麓遺跡の北東部に位置する道路敷設部分である。なお、南側に隣接する高岡郵便局は、平成６年度に宮崎県教育委員会が発掘調査を実施している。

調査結果　Tr.１は、表土下に地山（Ⅸ層）が現れた。Tr.２～３の表土下はマンガンが斑紋を形成する砂混じりの粘質土（Ⅴ層）、更に下位には灰褐色の粘質土（Ⅵ層）、更に下位はオリーブ灰色を呈する粘質土（Ⅶ層）が現れた。Tr.４は、表土の分厚い堆積の下より、硬くしまった暗褐色土（Ⅱ層）を認めた。層中には焼土片、炭の小片、小砂利、近世以降の陶器片を多く混入し、僅かながら白斑が認められたが、層下位は新しい遺物は認められなかった。地形的な落ち込みを、近世以降に埋めた結果と考えられる。Tr.５は、Ⅱ層下位に白斑を含む明褐色粘質土層（Ⅲ層）が認められた。こうした堆積状況はTr.６～７においても共通する。Ⅲ層は土師器が多く含まれたが、遺物の出土は層上位15cmまでの間にほぼ限られており、層中位以下における遺物の出土はごく僅かであった。また、遺物の出土は平面的にも濃淡が認められた。Ⅲ層の下位からは、Tr.２～４でも確認した灰オリーブ色を呈する粘質土層（Ⅶ層）が認められた。

調査の結果、Ⅲ層の堆積の認められる範囲は本調査の必要があると考えられる。



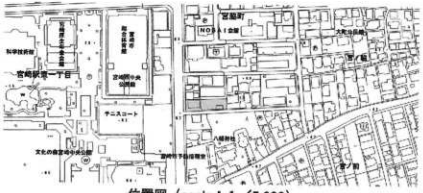
トレンチ配置図（scale：１／1,500）



基本層序

26. 宮脇第２遺跡　確認調査

所 在 地：宮脇町
（北緯31度54分53秒、
東経131度26分11秒）
調査期間：平成20年７月30日
（実働１日）
調査面積：47.2m²
（調査対象約830m²中）
調査原因：住宅建築
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：現状保存



位置図（scale：１／5,000）

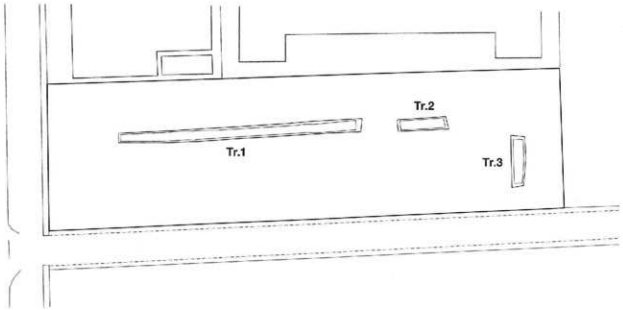
立地　当該地は宮崎平野海岸部の砂丘列と内陸丘陵地帯との間の低地帯中に位置する。現在の市街地中心部から海岸部まで東西に延びる、低地帯中の微高地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地「浄土江遺跡」をはじめ、「大町遺跡」、「北中遺跡」など、多数の遺跡が集中する。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「宮脇第２遺跡」となっており、同じく「宮脇第２遺跡」に含まれる隣接地では、平成14年度の発掘調査において、狭小な調査範囲にもかかわらず、古墳時代を中心とする竪穴住居が10基以上検出されている。

調査結果　バックホーにより３本のトレンチを設定、調査を行った。当該地の土層は、Ⅰ層：表・客土、Ⅱ層：褐色粘質土（客土）、Ⅲ層：褐色粘質土（遺物細片含有）、Ⅳ層：明黄褐色砂質土（地山）の順で堆積している。うちⅣ層上面が遺構検出面であり、Ⅳ層の上位に堆積するⅢ層は、土器細片をまばらに含有するが、トレンチ壁面における観察では、遺構の掘り込み等は確認されなかった。遺構は現地表から深40～60cmに検出され、予定地西端と東端では、検出面の高さに30cmほどの標高差がある。遺構密度は極めて高く、Tr.１では10基の遺構を検出した。遺構①・⑦は竪穴住居、遺構②・③はピット、遺構④は土坑、遺構⑤は土器埋設炉、遺構⑥・⑧・⑨・⑩は溝と思われる。うち、竪穴住居と思しき遺構⑦は、一部、遺構内の掘り下げを行い、垂直に近く立ち上がる壁面と、検出面より深20cmに位置する床面を確認している。また掘り下げ箇所からは、土師器片を出土している。遺構⑤の土器埋設炉は、地山上において上部が削平された状態で、単体で検出された。トレンチ壁面の精査により、地山上に堆積する遺物包含層中に当遺構に対応する竪穴住居の痕跡を探したが検出されず、包含層の堆積以前に削平を受けていた可能性が高い。遺構⑧・⑩は極めて幅広な溝である。遺構⑧は一部掘り下げを行ったところ、堆積土中より、須恵器甕の胴部片を出土している。また遺構⑩は検出面より約70cmの深さで平坦な底面に至る。壁面の一部検出を行ったところ、垂直に近い立ち上がりを見せ、箱堀状の溝かと思われる。底面より９世紀後半から10世紀前半に位置づけられる須恵器坏の底部片が出土した。

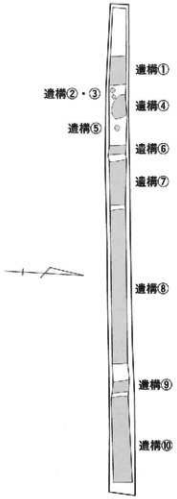
Tr.２・３では、ともにTr.１で検出された幅広の溝と思われる遺構⑩の埋土と類似した土を検出している。検出高の値も近似するため、同種の遺構ないし同一の遺構である可能性が高い。

以上、予定地全面において埋蔵文化財の遺存が確認された。予定地の北に隣接する平成14年度本調査実施箇所や、道路を挟んで西に隣接する「浄土江遺跡」と一連の集落域であろう。

なお、調査原因となった工事については、工事掘削が遺構面に達しないため現状保存措置とし、施工時には文化財課職員による工事立会いを行った。

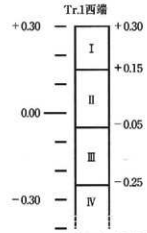


トレンチ配置図（scale：１／400）



遺構①・⑦：竪穴住居
遺構②・③：ピット
遺構④：土坑
遺構⑤：土器埋設炉
遺構⑥・⑧・⑨・⑩：溝

Tr.1遺構検出状況（scale：１／200）



Ⅰ：表・客土
Ⅱ：褐色粘質土。客土
Ⅲ：褐色粘質土。Ⅱに似るが、土器細片まばらに含有
Ⅳ：明黄褐色砂質土。地山

※数値は任意標高点との相対高（m）

土層柱状図

27. 山崎町下ノ原　試掘調査

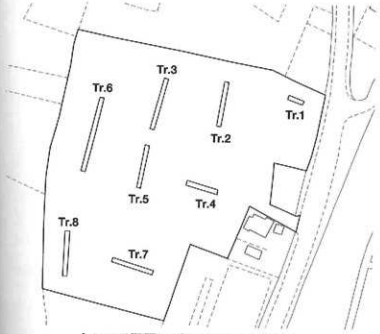
所 在 地：山崎町下ノ原
（北緯31度56分50秒、
東経131度27分33秒）
調査期間：平成20年８月５～７日
（実働３日）
調査対象：約23,738m²
調査原因：業務用倉庫建築
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：１／5,000）

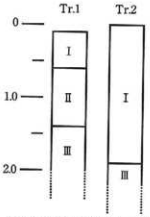
立地　開発予定地は宮崎平野の海岸部に南北に延びる４本の砂堤列中、内陸より２本目の通称第２砂堤上に位置する。第２砂堤上には、「山崎上ノ原第１・２遺跡」をはじめ、「石神遺跡」「猿野遺跡」等、古墳時代・古代を主とする周知の埋蔵文化財包蔵地が集中的に存在する。予定地も、周知の埋蔵文化財包蔵地に囲まれるが、予定地自体は包蔵地とはなっていない、いわば空隙地にあたる。

調査結果　バックホーによりトレンチを設定、調査を行った。予定地北端付近においては、現地表より50cmほど下に明黄褐色砂による地山が検出され、表土、客土も砂によって形成される。ただし、地山は非常に脆く、高位から流れ込み、堆積したものである可能性が高い。

敷地の大半は、現地表より２ｍもの厚さで最近の埋め立て土が入り、検出された地山は、通常、砂堤上で遺構検出面となる明黄褐色砂層より下の、所謂「青砂」と呼ばれる層であった。バックホーの限界により、埋め立て土を抜け切れなかった箇所もあるが、予定地のほぼ全面近くにおいて、地山は大きく削平されている。また、地山での遺構検出はもとより、客土中での遺物の検出も見られなかったため、当該地は埋蔵文化財無しと判断される。



トレンチ配置図（scale：１／2,500）



※数値は任意標高点との相対高（m）
Ⅰ：客土
Ⅱ：明黄褐色砂層
Ⅲ：明オリーブ灰色砂層

土層柱状図

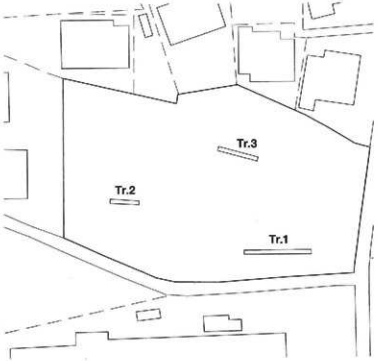
28. 大字本郷南方字榎田　試掘調査

所 在 地：大字本郷南方字榎田
（北緯31度51分10秒、
東経131度25分59秒）
調査期間：平成20年８月13日
（実働１日）
調査面積：40.3m²
（調査対象約3,593m²中）
調査原因：宅地造成
調査結果：埋蔵文化財無し

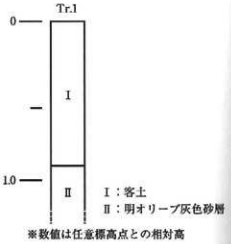
位置図（scale：１／5,000）

立地　開発予定地は、清武川の北岸、海岸部低地に面する、内陸丘陵地帯の裾部にあたる。微高地となる予定地周辺には、周知の埋蔵文化財包蔵地「西田第２遺跡」「東宮遺跡」などが存在し、予定地自体も、現況では微高地上の縁辺部に位置するように見受けられるため、試掘調査を実施した。

調査結果　バックホーにより３本のトレンチを設定、調査を行った。結果として、全てのトレンチにおいて、現地表より、１m程の深さにおいて地山が検出され、地山上位は埋め立て土であった。特に地山が削平されている痕跡もなく、また地山上における遺構の検出や、遺物の出土もなかったため、当該予定地は本来、低地であり、埋め立てにより、現況、隣接する微高地の一部に整形されたものと考えられる。従って、当該予定地は埋蔵文化財無しと判断される。



トレンチ配置図（scale：１／1,000）



土層柱状図

29. 境畑遺跡　確認調査

所 在 地：佐土原町上田島
（北緯32度02分20秒、
東経131度24分50秒）
調査期間：平成20年８月19日
（実働１日）
調査面積：51.7m²
（調査対象約3,320m²中）
調査原因：住宅建築
調査結果：埋蔵文化財無し

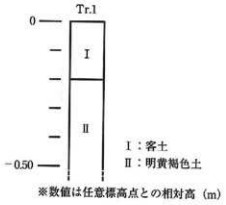
位置図（scale：１／5,000）

立地　当該地は内陸丘陵地帯の東端、下村川沿いの狭小な迫中に位置する。周辺の丘陵上、台地上には、船野遺跡や仲間原遺跡、佐土原城跡など、多数の遺跡が存在し、当該地も、丘陵下の低地ではあるものの、弥生・近世の散布地、「境畑遺跡」となっている。

調査結果　バックホーにより５本のトレンチを設定、調査を行った。Tr.２では、現地表より0.2mで、アカホヤ層が検出された。平面では、トレンチ両端に客土、その中にアカホヤ土、さらにそのアカホヤ土に挟まれて黒褐色粘質土（ローム土）が検出されるという、奇異な状況であった。さらにTr.２の南側に設定したTr.４でも、同じく現地表より0.2mで地山が検出されたが、平面的に、トレンチ両端に客土、中央にアカホヤ層という状況であった。これは、当該地が本来的に幅狭の尾根上の地形であり、これを横断する形でトレンチを設定したために、このような検出状況に至ったものと思われる。Tr.４以南のTr.４・５では、現地表より1.5m以上の深さにおいても客土が続いたため、掘り下げを中止した。またTr.１では、客土直下にローム層が検出された。

以上より、当該地は背後の丘陵より伸びた狭小な尾根の終端にあたると考えられる。現状では、整地により、段状の平坦地となってはいるが、本来的には遺跡の形成される地形であったとは考えにくい。以上より、当該地においては埋蔵文化財は存在しない。

トレンチ配置図（scale：１／1,500）



土層柱状図

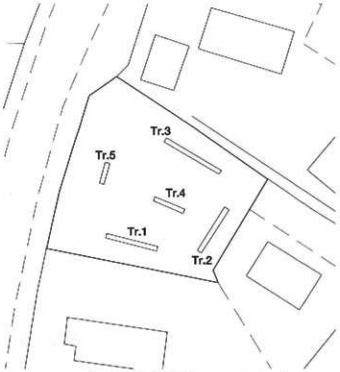
30. 大字芳士字今出　試掘調査

所 在 地：大字芳士字今出
（北緯31度58分７秒、
東経131度27分７秒）
調査期間：平成20年8月26日
（実働１日）
調査面積：46.5m²
（調査対象約1,243m²中）
調査原因：宅地造成
調査結果：埋蔵文化財無し

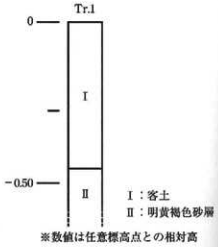
位置図（scale：１／5,000）

立地　開発予定地は、宮崎平野の海岸部に南北に延びる4本の砂堤列中、最も内陸側に位置する砂堤の西側裾部上に位置する。予定地の西200mの丘陵には、国指定史跡「蓮ヶ池横穴墓群」が所在するとともに、砂堤上には「元村遺跡」をはじめ周知の埋蔵文化財包蔵地が多数、集中的に存在する。予定地は「中ノ原第１遺跡」「中ノ原第２遺跡」をはじめ、多数の周知の埋蔵文化財包蔵地に囲まれた位置にあるため、試掘調査を実施することとなった。

調査結果　バックホーにより５本のトレンチを設定、調査を行った。結果として、現地表より約50cmの深さにおいて明黄褐色砂層による地山が検出された。この明黄褐色砂層は、砂堤上や、海岸部の微高地において、多く遺構検出面となる層である。ただし、当該地においては遺構は検出されず、また遺物の出土も見られなかった。当初の予想通り、砂堤の裾部であることは確認されたが、予定地においては、埋蔵文化財は存在しないと判断される。ただし今後も、近接する箇所においては、埋蔵文化財の存在について留意する必要があろう。



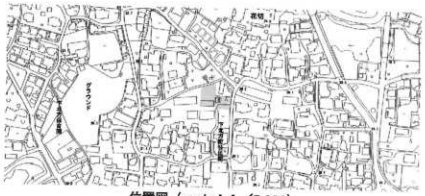
トレンチ配置図（scale：１／800）



土層柱状図

31. 下北方塚原第１遺跡　確認調査

所 在 地：下北方町塚原
（北緯31度56分42秒、
東経131度24分47秒）
調査期間：平成20年８月21日、
９月９～11日、10月２
・３日（実働６日）
調査面積：153.1m²
（調査対象1357.5m²中）
調査原因：共同住宅建築
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：本調査



位置図（scale：１／5,000）

立地　調査地は、宮崎市街地北西部に所在する下北方台地のほぼ中心部分に位置する。下北方台地は平和の塔がある越ヶ迫丘陵から派生する標高約20～30mの低台地であり、また、大淀川が流れを変える川曲の地点にもあたる。県指定史跡「宮崎市下北方古墳」など、市内でも最も多くの遺跡が集中する地域であり、台地のほぼ全域が周知の埋蔵文化財包蔵地である「下北方遺跡群」となっている。調査地も「下北方遺跡群」内に位置しており、古代瓦など多数の遺物が表出しているため、開発に先立って事前の確認調査を実施するにいたった。

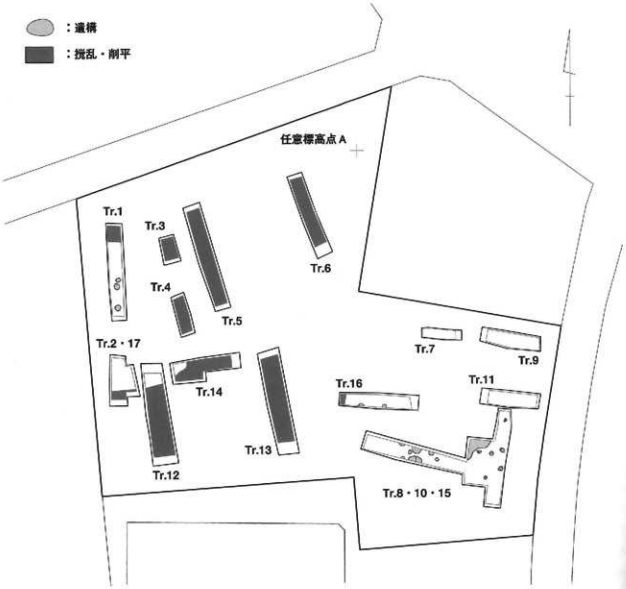
調査結果　調査地一帯は、台地上でも周辺と比べ１mほど高い微高地となっている。建物撤去との兼ね合いから、調査は３回に分けて、計17本のトレンチを設定しバックホーによる掘下げをおこなった。

調査地西半のTr.１、２、12、14、17では、現地表から10～20cm程で地山が検出された。地山最上層は褐色ローム層であり、当地周辺で本来的には褐色ローム層より上層に堆積している、黒色ローム層、アカホヤ火山灰層などは認められなかった。したがって、調査地西半部の大部分は、大きく削平されていると判断された。また、大きく撹乱されている部分も存在した。ただし、Tr.１からは、ピット（柱穴）が３基検出された。そのうち１基を半裁したところ、埋土中よりヘラ切底の土師器坏片が出土しており、一部に遺構が存在していることが確認された。

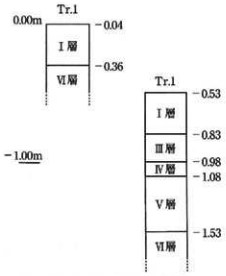
調査地東半は、現況、東に向かって下る緩斜面となっている。アカホヤ火山灰層が地山最上層であり、その上には10～13世紀降灰の霧島火山灰である高原スコリアをまばらに含む遺物包含層が20～40cm程の厚さで堆積していた。今回の確認調査において出土した遺物の多くは、この包含層中から出土したもので、土師器椀や須恵器甕、黒色土器椀など、時期の比定できるものの殆どは古代（奈良・平安時代）に属するものである。遺構は、地山上でピット13基、土坑と思しきものが数基検出された。ピットのうち6基については全掘をおこなった。

以上の調査結果から調査地の現況については以下のように判断できよう。調査区東半では、遺物包含層、アカホヤ火山灰層が確認され、遺構や遺物も多く検出された。これに対し、調査区西半では、表土、客土直下が褐色ローム層となっており、褐色ローム層より上位の黒色ローム層、アカホヤ火山灰層、遺物包含層は確認できなかった。この状況から、調査地一帯は本来、東から西に向かって高くなる小丘陵状の地形であったものが、主に調査地西半の削平によって現況の平場に造成されたものと考えられる。削平の時期については、調査地西半部分の大規模な撹乱状況から最近のものである可能性が高い。しかし、調査地西端のTr.１で検出されたピットの埋土中より、土師器坏片が出土していることから、古代においてある程度、現況に近い状態まで整地がなされていた可能性も考えられる。

当地は、以上のように遺構、遺物が検出されたことから、遺跡であることが確認された。調査後の協議の結果、本調査を実施するにいたった。



トレンチ配置図（scale：1／400）



※数値は任意標高点Aとの相対高

土層注記
Ⅰ層：表土、客土
Ⅱ層：黒褐色粘質土
遺物包含層。スコリア火山灰をまばらに含む。
Ⅲ層：黒褐色粘質土
遺物包含層。スコリア火山灰を比較的多く含む。
Ⅳ層：アカホヤ火山灰層
地山層。
Ⅴ層：黒色ローム層
地山層。
Ⅵ層：褐色ローム層
地山層。

土層柱状図

32. 大塚町樋ノ口　試掘調査

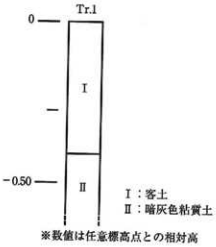
所 在 地：大塚町字樋ノ口
（北緯31度55分10秒、
東経131度23分46秒）
調査期間：平成20年９月２日
（実働１日）
調査面積：67m²
（調査対象1710m²中）
調査原因：宅地造成
調査結果：埋蔵文化財無し

位置図（scale：1／5,000）

立地　開発予定地は大淀川の下流右岸、低地中の微高地に位置する。周辺には前方後円墳を含む県指定史跡大淀古墳群が分布し、また13世紀に社殿改装の記録がある大塚八幡神社が予定地に隣接する。古墳時代、中世の遺構の存在が想定されたため、試掘調査を実施することとなった。

調査結果　バックホーにより３本のトレンチを設定、調査を行った。結果として、いずれのトレンチにおいても遺構はもとより良好な地山の堆積も検出されなかった。客土の下は、マンガンの沈殿物等を含む湿性の高い暗灰色粘土となっており、低湿地ないし河川に由来する堆積と思われる。遺物等の出土もなく、当該予定地においては埋蔵文化財無しと判断される。

トレンチ配置図（scale：1／1,000）

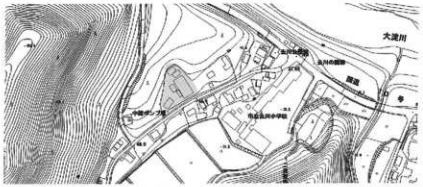


※数値は任意標高点との相対高

土層柱状図

33. 高岡町内山字去川　試掘調査

所 在 地：高岡町内山字去川
（北緯31度54分58秒、
東経131度13分38秒）
調査期間：平成20年９月22日
（実働１日）
調査面積：４m²
（調査対象185m²）
調査原因：市指定有形文化財
二見家住宅修復工事
調査結果：埋蔵文化財無し



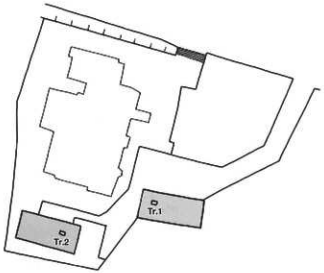
位置図（scale：１／5,000）

立地　去川地区は、蛇行する大淀川の右岸にある。地区の中央には丘陵があり、その外側を低地が空堀状に囲む。これは、かつて大淀川が丘陵を捲くように大きく湾曲したためと考えられる。今回の調査地は、そうした空堀状の低地の外縁斜面上にあり、去川地区内に所在する二見家屋敷の敷地内にあたる。今年度予定されている、復元の伴う周辺整備工事により削平される駐車場及び解体される厩屋部分にトレンチを設定した。

調査結果　駐車場部分に設定したTr.１は、腐植土を中心とする黒色土層中から多くの現代瓦、ガラス、現代の陶磁器片が多く認められた。黒色土の下位は黄褐色の粘質がかった層が認められ、既に地山に到達していた。なお、腐食土層と地山の境界部分から掘り込みが認められ、中から器高約40cmの甕を確認した。甕の周囲には掘り込みや蓋として使用されたと思われる板状の礫が認められたことから、何らかの収納を目的として埋設されたと考えられる。甕の中からは、現代瓦、現代陶磁、プラスチック等非常に新しいものが混入していたばかりでなく、埋設時の掘り込みからもビンの欠片など近現代の瓦礫が混入していた。甕自体も近代以降のものであったことから、地山以外は近代以降の客土と思われる。

応接及びトイレ等にあたるTr.２は土間を掘りぬいたところ、土間の下位から牛のスネロームブロックを含む、硬くしまった黄褐色の粘質土と、その上面から掘られた柱穴を１基確認した。これは、かつての使用された土間と柱穴である可能性が高い。しかしこの層及び柱穴埋土からも、現代陶磁やプラスチック片が確認され、非常に新しい年代のものであることが分かった。更に下位は粘質土と礫層が続いた。

以上、調査地は、近代以降の影響を大きく受けていることが明らかとなった。



トレンチ配置図

基本層序

34. 吉村町今村　試掘調査

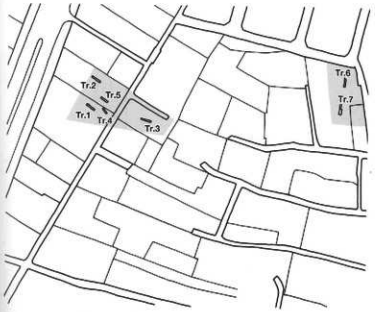
所 在 地：吉村町今村甲
（北緯31度54分46秒、
東経131度26分56秒）
調査期間：平成20年9月25日
（実働１日）
調査面積：26m²
（調査対象3,440m²）
調査原因：区画整理
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：現状保存

位置図（scale：１／5,000）

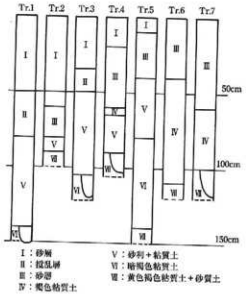
立地　大淀川河口付近の左岸に展開する微高地上に立地する。この区域は、地形を考慮して決められた範囲区域においては開発前に埋蔵文化財の有無を確認するための調査が行われてきた。今回の調査箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「今村遺跡」の隣接地にあたることから、開発に先立ち、事前の試掘調査を行った。

調査結果　Tr.１～５は西側の工区に設定した。Tr.１からは径15cm、深さ10cmの柱穴が１基検出された。またTr.３からは、東西方向に走る幅50cm、深さ15cmの溝が、Tr.４からは幅50cm、深さ15cmの溝がそれぞれ1条検出された。Tr.３と４の溝の方向から、同じ遺構と推測される。これらの遺構は遺物を伴っていないため、時期は不明である。Tr.4は黄砂が確認されたものの遺物・遺構共に確認されなかった。Tr.５も同様の出土状況であったが、地山との境界より、径20～10cm、深さ10～15cmの柱穴を計３基検出した。これら３基の分布はまちまちであり、同一遺構とは考えにくい。埋土からの出土遺物はなく、出土遺物も皆無であったため、遺構の時期は不明である。Tr.６・７は北側の工区に設定したが遺構は確認されなかった。

以上の結果から、Tr.１・４は時期不明ながら遺跡が分布する可能性が高いことが考えられるが、地下１m付近より検出されていることから、工事による影響を受けることはないと判断した。



トレンチ配置図（scale：１／2,500）



基本層序

35. 高岡麓遺跡　確認調査

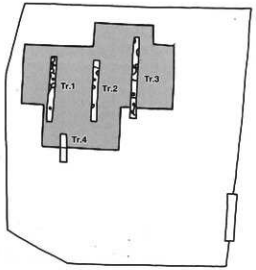
所 在 地：高岡町内山
（北緯31度57分25秒、
東経131度57分25秒）
調査期間：平成20年10月20日
（実働１日）
調査面積：30m²
（調査対象1,054m²）
調査原因：公共施設建設
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：本調査

位置図（scale：１／5,000）

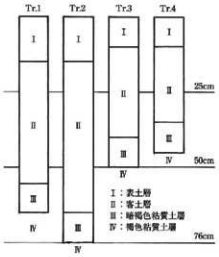
立地　当該地は大淀川左岸の低地上に立地する。高岡町の市街地中心部付近に当たり、高岡総合支所等公共施設の立ち並ぶ中に立地する。近世、薩摩藩の外城として立ち並んだ武家屋敷ばかりでなく、中世や古墳時代まで遡る周知の文化財包蔵地「高岡麓遺跡」の域内に当たることから、開発に先立ち、確認調査を行った。

調査結果　調査の結果、北西に設定したTr.１からは、表土層を除去した後に近現代の陶磁器類を含むⅡ層を確認した。更に下位のⅢ層中からは、焼土粒子を含みながら土師器坏を確認した。なお、この層の上面からの遺構検出は非常に困難と判断し、更に下位で確認した地山面で揃え、遺構検出を行ったところ、柱穴５基及び土坑４基を確認した。確認のため半裁した柱穴は径40cmで深さ30cm、土坑は径１mを超え深さ15cm、遺構中から小皿が出土した。Tr.２からは、北端において攪乱坑を確認したものの、それ以外の堆積は良好であり、地山面において柱穴３基、土坑1基を検出した。確認のため半裁した柱穴は径20cm、深さ15cmであった。更に東側で確認したTr.３からは、その南側において幅２m近くに及ぶ浅い溝を検出したほか、土坑２基、柱穴６基を確認した。土坑は径１mに及ぶが、深さは10cm程度であった。また溝内で検出した柱穴は深さが50cmを越え、埋土から円礫や寛永通宝を確認した。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたことから、本調査が必要と考えられる。



トレンチ配置図（scale：１／500）



基本層序

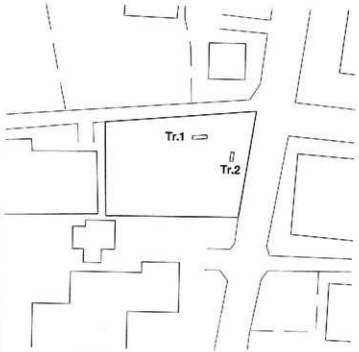
36. 大字島之内字中小路　試掘調査

所 在 地：大字島之内字中小路
（北緯31度59分21秒、
東経131度26分56秒）
調査期間：平成20年10月23日
（実働１日）
調査面積：2.16m²
（調査対象356m²中）
調査原因：共同住宅建築
調査結果：埋蔵文化財無し

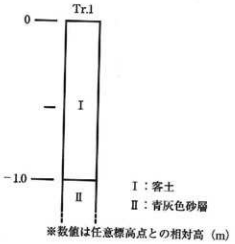
位置図（scale：１／5,000）

立地　開発予定地の位置する一帯は、低地水田地帯中の、海成砂層を基盤とした島状の微高地となっている。微高地上には、前方後円墳を含む住吉古墳群や、弥生時代の環濠の一部が検出された「島之内萩崎遺跡」などが存在する。

調査結果　バックホーにより２本のトレンチを設定、調査を行った。ともに、現地表から1.0mまで客土が入り、以下は青灰色砂層となっている。また、客土中には、通常、青灰色砂層の上に堆積し、周辺の遺跡において遺構検出面となっている明黄褐色砂が含まれており、地山は深くまで削平されていると判断してよい。表土、客土中より、土器細片が数点出土し、本来、遺跡が形成されていた可能性は考えられるが、削平により遺存はしていない。以上より、予定地には埋蔵文化財は存在しないと判断される。



トレンチ配置図（scale：１／600）



土層柱状図

37. 古城第２遺跡　確認調査

所 在 地：佐土原町上田島字田中
（北緯32度2分39秒、
東経131度26分24秒）
調査期間：平成20年11月13
・14日（実働２日）
調査面積：48m²
（調査対象19,748m²中）
調査原因：圃場整備
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：協議中

位置図（scale：１／5,000）

立地　田中地区は、一ッ瀬川下流域右岸に位置する。丘陵部との境界付近に位置する斜面上に立地し、工区内の大きな谷によって東西に分断される。現地は平成14年に試掘調査が行われ、遺跡の分布が確認されていた。今回は、未だ試掘調査が行われず、埋蔵文化財の有無が明確でない部分の調査を行った。

調査結果　調査は重機を用いて掘削し、その後人力で検出作業を行った。トレンチは工事区域に沿って13箇所設定、西から東へ移動しながら調査を行った。調査結果から、堆積状況は以下の３ヶ所に分類が可能である。

◎谷西側（Tr.１～５）

耕作土下位に黄褐色シルト質層が堆積し、その下位に暗灰褐色の小礫混じりのシルト質層が15cm程度堆積する。堆積は薄いものの、この層からは古代に当たる多くの遺物が出土することから遺物包含層と考えられる。また下層は黄褐色の粘質土層であるが、層上面において柱穴や溝等の遺構も確認された。ただTr.2は灰褐色のシルト質層からの遺物出土、遺構検出が皆無であったことから、この地点には埋蔵文化財は分布しないものと判断される。なお、最も標高の高い位置にあるTr.５は、撹乱土が地山まで分厚く堆積しており、恐らく隣接する池の工事を行う際に、大規模な削平と盛土が行なわれたと見られる。

◎谷東側（Tr.６～12）

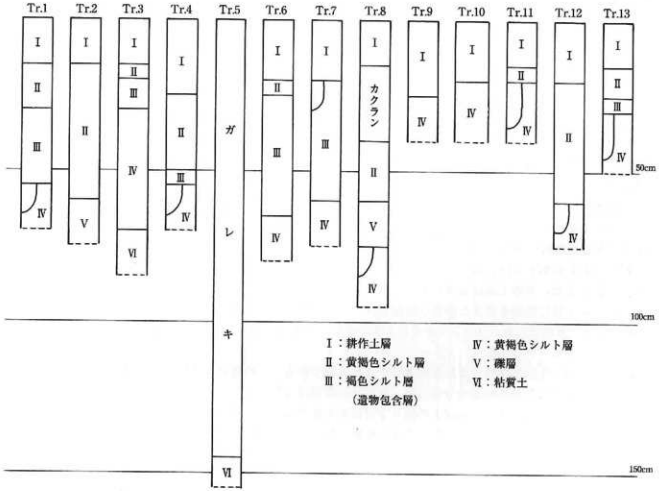
丘陵裾に当たるTr.９・10は粘質土が分厚く堆積しており、かつての丘陵の続きであったことを窺わせるが、それ以外のトレンチからは、遺物包含層は確認されなかったものの、いずれも遺構が検出され、中には竪穴建物を思わせる急激な落ち込みも確認され、遺構内には古代と考えられる須恵器・土師器等の遺物も多量に確認された。ただしTr.８のように、斜面下位からは礫層の下から遺構が検出されるものもあった。

◎丘陵東部（Tr.13）

黄褐シルト層下位より柱穴、溝等の遺構を検出した。遺構からの遺物の出土はなかったが、周辺や耕作土層からは古代の遺物が散布することや、遺構の検出状況が谷東側に似ていることから、古代の所産と考えられる。

以上の結果から、本区域では、一部土層の消失はあるものの、谷を挟んだ両側の丘陵部、及び丘陵東部にかけて古代に相当する遺跡が分布すると考えられる。

トレンチ配置図（scale：１／2,500）



基本層序

38. 先切遺跡　確認調査

所 在 地：阿波岐原町
（北緯31度56分46秒、
東経131度27分22度）
調査期間：平成20年11月４～６日
（実働３日）
調査面積：60m²
（調査対象23,093m²中）
調査原因：河川改修
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：協議中

位置図

立地　産母川は、宮崎平野東側を流域とし、大淀川左岸に展開する砂丘（浜堤）のうち、いわゆる第一砂丘と第二砂丘の間を流れ、日向灘へと注ぐ。今回、圃場整備に併行して行われる同川の河川改修が行われることとなった。計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地「先切遺跡」を含むが、砂丘の端部や、河川沿いに展開する微高地が存在するうえ、低地には水田跡が検出される可能性が考えられることから、試掘調査を行った。

調査結果　調査結果から、堆積状況は以下の4ヶ所に分類が可能である。

◎丘陵端部（Tr.１・２）

南東に当たる２つのトレンチからは、粗い砂粒を基底部とする層が確認された。層は縞状に堆積しており、その色調より、東から西への傾斜を確認した。平成20年４月、東隣の区画で試掘調査を行った際も同様の層が確認されたが、その際に粗い砂粒の上層から出土した多量の弥生土器は、当トレンチからは確認されなかった。

◎砂丘間低湿地部（Tr.３～15）

田の床土と考えられる灰白色粘質土層が確認された。床土の下位は青砂を主体とし、粘質土が混合する層が堆積する。この区域からは耕作土下において黒褐色土が部分的に確認されるが、これはマンガンの集積である可能性が高い。なお、灰白粘土層の堆積は15cm～30cmと様々であり、長年水田として使用された結果形成された結果であろうと予測できるものの、層中に洪水砂等、面的に分層できる要素は確認できなかった。また粘質土においても、Tr.15を除き若干の細粒砂が混入する点は特徴といえる。

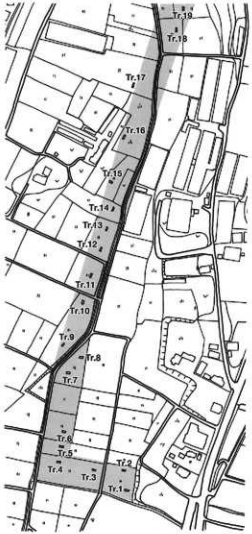
◎砂丘間微高地部（Tr.16・17）

２つのトレンチからは、耕作土層下に黄砂を確認した。調査区内で黄砂が確認されたのはこの区域のみであった。また、黄砂上面は遺構検出面である。Tr.17では新しい時期の攪乱が検出されたが、Tr.16からは耕作土層下位に遺物を交えた砂層が確認され、更にその下位には竪穴建物と考えられる、方形のプラン（深さ15cm）を確認した。プラン中からは、弥生中期～後期の土器が多量に出土した。

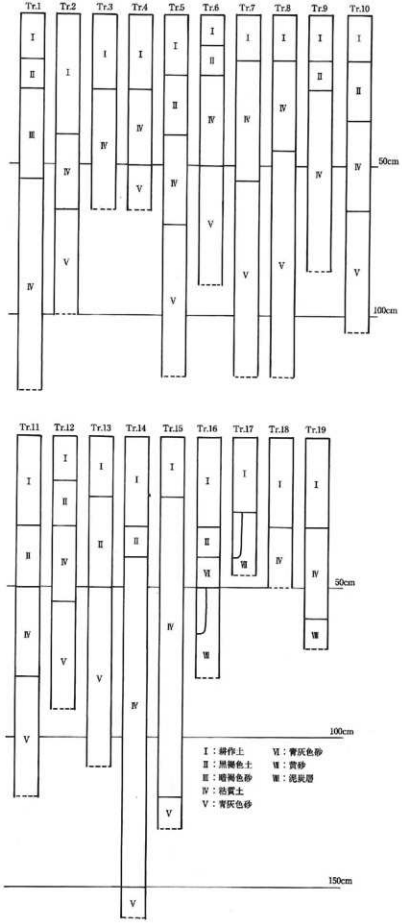
◎粘質土堆積部（Tr.18・19）

周知の埋蔵文化財包蔵地である先切遺跡を含む区域である。この地点で確認された粘質土は、砂粒を殆ど混入しない、純度の高いものであった。粘質土の堆積は分厚いものと考えられるものの、出水が激しかったために、柱状模式図にある以上の掘り下げは不可能であった。また粘質土中における洪水砂等の面的な分層は、調査で確認した部分においては不可能であった。Tr.19からは粘質土の下位に泥炭物の堆積層を確認した。泥炭層上面より出水が激しかったため、より掘り下げての調査は不可能であったが、確認した分では木質等、形のあるものは確認できなかった。

以上の結果から、本区域の中ではTr.16を設定した微高地部が弥生時代の遺物包蔵地と考えられる。



トレンチ配置図



基本層序

39. 下北方遺跡群　確認調査

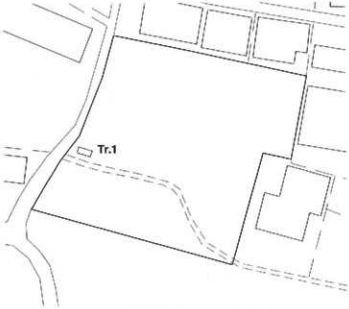
所 在 地：下北方町横小路
（北緯31度56分30秒、
東経131度24分49秒）
調査期間：平成20年11月12日
（実働１日）
調査面積：3.8m²
（調査対象1,715m²中）
調査原因：共同住宅建築
調査結果：埋蔵文化財有り
調査後措置：協議中

位置図（scale：１／5,000）

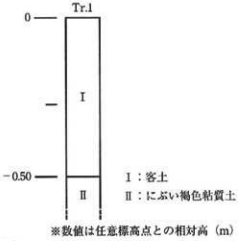
立地　開発予定地は下北方遺跡群中、台地の南端、皇宮屋神社境内の北に隣接する約1,400m²の範囲である。皇宮屋神社は、境内に土器片が散布しており、埋蔵文化財の存在は、ほぼ確実視されている。同遺跡群内では相当量の布目瓦が発掘、表採で得られており、また同神社は神武天皇の寓居跡との一種の貴人伝説を持つことから、官人の館跡の可能性も考えられる。隣接する今回調査地については、現況、雑木林と畑地となっており、遺構遺存の可能性は極めて高い。

調査結果　バックホーにより１本のトレンチを設定、調査を行った。先述のとおり、調査地は現況雑木林と畑地となっており、今回調査は、畑地部分において、耕作物に影響を与えない、敷地東端において１本のみトレンチを設定した。結果として現地表より50cmの深さにおいてローム土による地山を検出し、その上面においてピット３基と溝状遺構ないし竪穴住居と思われる遺構１基、および客土中より土師器片3点を検出した。

当該地には埋蔵文化財の遺存することが確認されたが、現況畑地と雑木林、竹林となっており、確認調査段階にしろ、予定地全体の状況を知りうる充分な調査を行える環境にない。今後、調査を行いうる環境が整ったのち、再度の確認調査を実施する。



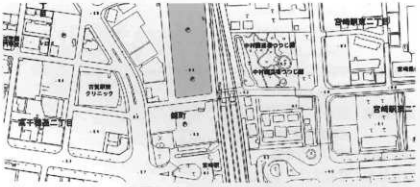
トレンチ配置図（scale：１／800）



土層柱状図

40. 錦町　試掘調査

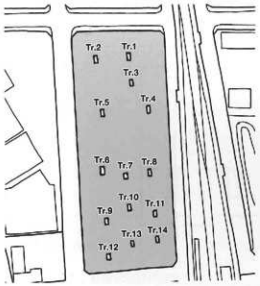
所 在 地：宮崎市錦町
（北緯31度55分１秒、
東経131度25分53秒）
調査期間：平成20年11月18～20
・25日～28日
（実働７日）
調査面積：140m²
（調査対象6,036m²）
調査原因：公共施設建設
調査結果：埋蔵文化財無し



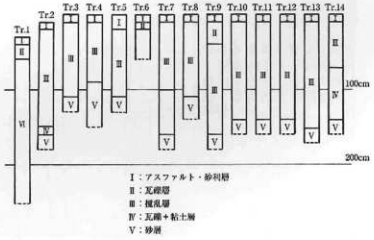
位置図（scale：１／5,000）

立地　当該地は大淀川河口付近の沖積地にあたる。日豊本線をはさんだ東側には、古墳時代・古代を中心とする集落「浄土江遺跡」や「宮脇遺跡」等が分布するほか、当該地周辺には、宮崎駅の関連施設建設時に削平された「広島古墳群」が存在したとされることから、開発に先立ち、事前の埋蔵文化財試掘調査を実施した。

調査結果　調査地は駐車場であるため、調査はトレンチ設定箇所のアスファルトを破砕・除去した後、バックホーによりトレンチ部分の試掘調査を行った。その結果、上下に瓦礫層を挟みながら客土が分厚く堆積する状況が確認された。この客土は黄褐色土と暗褐色土、砂によって構成されている。更に下層からは暗青灰褐色粘質土層の堆積を確認したが、この層は４月末に行われた南隣の市営駐車場の調査においても確認されており、市営駐車場から続く低地が当調査地の大部分を占めていたと考えられる。この低地は幅の広い溝状を呈していることから、自然流路と考えられる。そのなかで、調査区東北部の隅に当たるTr.１では縞状を呈する砂層が確認された。縞は東から西に傾斜していることから、東側に広がる微高地に堆積していた砂丘からの流入と考えられる。調査では、客土から近・現代の瓦礫が多量に確認されたが、文化財と判断しうるものはなかった。



トレンチ配置図（scale：１／2,000）



基本層序

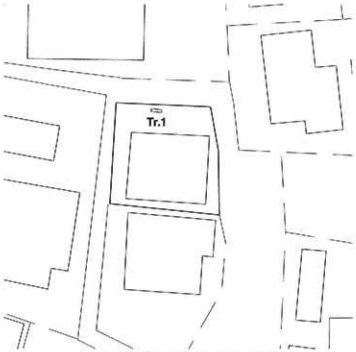
41. 下北方遺跡群確認調査

所 在 地：下北方町横小路
（北緯31度56分29秒、
東経131度24分51秒）
調査期間：平成20年12月17日
（実働１日）
調査面積：0.5m²
（調査対象195m²中）
調査原因：個人住宅建築
調査結果：埋蔵文化財未確認
調査後措置：現状保存

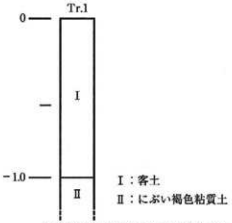
位置図（scale：１／5,000）

立地　開発予定地は下北方遺跡群中に位置する。予定地は台地の南端寄りの位置にあり、過日、実施した確認調査において遺構、遺物の存在が確認された地点の北東70mほどの位置にある。近接する畑地での土錘の表採もあり、埋蔵文化財遺存の可能性は高いが、過去に実施した西側隣接地の立会い調査では、一帯が広範囲にわたって、大規模削平の行われていることも確認されており、当該地においても、同様の状況にある可能性も想定される。

調査結果　バックホーにより１本のトレンチを設定、調査を行った。現地表より95cmまでは客土であり、以下は地山であるローム層の残存が確認できた。調査箇所においては、遺構、遺物の検出はなかった。工事計画等との兼ね合いから、それ以上の調査トレンチを設定することができなかったが、隣接地において実施した立会調査の結果等より、予定地においては、通常遺構形成面となる層より下まで、大きく削平されていると判断される。また、工事計画高と地山との間に、充分な保護層が確保されるため、遺構、遺物は未確認ながら、現状保存措置とした。



トレンチ配置図（scale：１／500）



※数値は任意標高点との相対高（m）

土層柱状図

報 告 書 抄 録

ふ り が な	みやざきしまいぞうぶんかざいしくつ・かくにんちょうさ
書　　名	宮崎市埋蔵文化財試掘・確認調査
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	
編著者名 ※下線編集	石村友規・金丸武司・島田正浩・竹中克繁・西嶋剛広
編集機関	宮崎市教育委員会
所　在　地	〒880-0805　宮崎県宮崎市橘通東１丁目14番20号　TEL（0985）25－2111
発行年月日	2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
—	市内一円	45201	—	—	—	2008.1 ～ 2008.12	—	開発事業対応等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
—	—	—	—	—	開発事業等の対応として平成20年１～12月に市内一円で実施した試掘・確認調査の調査結果報告書

宮崎市文化財調査報告書

宮崎市
埋蔵文化財試掘・確認調査

2009年3月

発　行　　宮崎市教育委員会

宮崎市埋蔵文化財センター・遊古館